



国立大学法人

豊橋技術科学大学

# 同窓会報



第34号 2017 豊橋技術科学大学同窓会

2017  
No. 34



同窓会会長挨拶

## 開学 50 周年に向けて同窓会の活性化を!

旧第3系(電気・電子工学)1期 古野 志健男

<(株)日本自動車部品総合研究所 専務取締役>

豊橋技術科学大学の同窓会の皆様方におかれましては、常日頃より同窓会活動に対しご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。改めて心より深く御礼申し上げます。

感じて居られる方も多いと思いますが、人間、歳を重ねる毎に自分を取り巻く時間が短くなり、一年が加速していきます。私事で恐縮ですが今年 2017 年で還暦を迎えてしまい、豊橋技科大の1期生(3年次編入)の大半がそれに該当致します。この人生の節目で回顧致しますと、後悔はしたくないですが反省は多々ございまして、これを期に

新たな人生に向け、世のため日本の技術科学力向上のために少しでも貢献できれば、生きた証かなと気を引き締めて居ります。

さて、ご存知の通り、昨年 2016 年 10 月には豊橋技術科学大学は開学 40 周年を迎えまして、大学と同窓会共同で「記念事業趣意書」を起草し、幾つかの記念事業を進めて参りました。また、同窓会と致しましても独自の記念事業を進めて居りますので、それらの結果及び予定を簡単にご紹介致します。

- ・ 40 周年記念講演会 : 2016 年 8 月 27 日 Kii 株式会社代表取締役会長兼 CEO 荒井 真成氏(参加約 50 名)
- ・ 40 周年記念式典 : 2016 年 10 月 3 日 大学主催(同窓会会長として参加、挨拶)
- ・ 系毎の 40 周年記念同窓会 : 2016 年 10 月 9 日 電気電子 / 情報系合同(参加約 130 名)  
2016 年 12 月 3 日 機械系合同(参加約 60 名)
- ・ 学部生対象の 40 周年記念アワード(同窓会長賞) :  
2017 年 3 月 23 日 卒業記念パーティで 19 名表彰  
本アワードは今後も継続実施していく予定
- ・ 40 周年記念寄附金の協力 : トータル 1103 万円 (2016 年 10 月時点 : 2017 年 9 月まで受付)  
<内訳> OB/OG : 412 万円、同窓会資金 : 400 万円、豊橋技科大教員 OB/OG : 291 万円  
<用途> 大学の図書館改築(産学連携センター併設)の資金に充当

この豊橋技科大開学 40 周年を節目に、次の開学 50 周年に向けて、2017 年度の同窓会活動につきましては、今までに構築致しました Web 名簿システムと一元管理された会計システムをベースに、同窓生間の年次や系を越えた人脈の輪を広げ、同窓会の皆様方もさらに飛躍できるように活性化していきたいと考えて居ります。例えば、地域ネット

ワーク、OG ネットワーク、組織ネットワークなどです。

また、皆様方も進化し続けている最近の豊橋技術科学大学を一度訪問され、大学の最先端研究に触れて産学連携などを前向きにご検討されてもいいかと存じます。

重ねて、同窓会活動への皆様方のご協力・ご鞭撻を深くお願いして、挨拶に代えさせて戴きます。

開学40周年記念事業

豊橋技術科学大学同窓会主催 講演会開催報告

建築・都市システム学系 岡辺 拓巳



2016年8月27日(土)にTUT同窓会主催の講演会が行われました。同窓会では昨年度より、オープンキャンパス内での主催イベントとして講演会を企画しています。2回目となる本年は、開学40周年を記念して本学同窓生である荒井真成氏(Kii株式会社代表取締役会長兼CEO)を講師に招き、「Silicon Valley型起業術とグローバルイノベーション」と題した講演会を開催しました。荒井氏は本学の情報工学専攻を修了後、国際的な企業で活躍された後にシリコンバレーでベンチャー起業を成功させ、現在はIoTプラットフォームを中心に世界規模の事業展開を進めておられます。

会場のA1棟101教室には学内外あわせて55名の聴講者が集まりました。講演では、本学修了後の企業時代を経て米国でベンチャー起業に至った経緯など荒井氏の体験談が紹介され、参加者は興味深く耳を傾けていました。その後のフリートークでは、会場から語学や海外生活、就業のほか、起業に関する質問が多くありました。荒井氏からは具体的なアドバイスが示されたほか、会場とも活発に意見が交わされるなど、濃密な講演会となりました。

写真：講演会の様子

豊橋技術科学大学開学40周年を記念して、平成28年10月9日(日)にロワジールホテル豊橋にて電気電子・情報関連系合同同窓会(第2回三志会)を開催しました。当日は、電気・電子情報工学系(新2系)、情報・知能工学系(新3系)、旧電気・電子工学系(旧3系)、旧情報工学系(旧4系)、旧知識情報工学系(旧7系)の同窓生に加え、関連系の名誉教授、退職教員、現職教職員、本学在籍経験のある教職員を含め、総計127名にご参加いただきました。

第1部の記念講演会では、旧3系第1期生の岐阜工業高等専門学校 所 哲郎 教授(本会幹事長)にご挨拶いただいた後、今年3月に本学を定年退職された石田 誠 新2系名誉教授(現本学特別顧問)に「37年間の回想」の題目でご講演いただきました。第2部の懇親会では、旧4系第1期生の井上 光輝 本学理事・副学長に開会・乾杯のご挨拶に始まり、西永 頌 元学長、旧4系 田所

嘉昭 名誉教授、中川 聖一 名誉教授、旧3系 太田 昭男 名誉教授にご挨拶いただきました。最後に、旧3系 第1期生 古野 志健男 本学同窓会長にご挨拶いただき、無事閉会となりました。

開催日の設定(三連休の中日)に問題があり、8年前(2008年3月)に開催した第1回三志会(旧3系・4系合同同窓会)と比較して参加者数が当初予定より少なかったのが残念でしたが、当日の会は非常に盛況で、至る所で思い出話に花が咲いていました。ご参加いただいた皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、本会の準備から実施に関して、本学同窓会には多大な経済的支援を賜りました。深く感謝致します。

第3回三志会は、東京オリンピックの開催される2020年開催を予定しています。4年後に皆様とお会いできるのを心より楽しみにしております!





## 第2回三志会準備金（同窓会予算より支出）

項 目	費 用
案内はがき印刷・郵送代	¥337,311
所先生（岐阜高専・第2回三志会幹次長）準備会諸旅費（4回分）	¥19,350
名札代金	¥4,439
記念品（TUT同窓回印字付きカードタイプUSB×300個）	¥214,292
総計	¥575,392

## 第2回三志会開催費収支報告

### 【収入】

参加者会費（10,000円×126人）	¥1,260,000
各系同窓会実施補助金（同窓会予算より支出）	¥357,060
総計	¥1,617,060

### 【支出】

記念講演会関係費用	¥193,860	
コーヒー（460円×5）		¥2,300
会場室料		¥100,000
贈呈花束		¥7,560
つぼ花		¥10,800
スクリーン		¥30,000
吊看板		¥43,200
懇親会費用	¥1,353,200	
料理代（7,300円×128人）		¥934,400
フリードリンク（2,700円×128人）		¥345,600
スクリーン		¥30,000
吊看板		¥43,200
その他	¥70,000	
司会者謝金（鈴木理香子様）		¥70,000
総計	¥1,617,000	

開学40周年を記念して、平成28年12月3日(土)午後の名豊ビルにて機械工学系(新1系)・機械システム工学系(エネルギー工学系)(旧1系)・生産システム工学系(旧2系)の合同同窓会を実施しました。同窓生に加え、名誉教授、現職教職員を含め総計64名にご参加いただきました。集合写真撮影後に、発起人の一人である旧1系1期生の柳田秀記教授の司会で合同同窓会が執り行われました。旧1系1期生で元同窓会会長の今泉敏幸様、系長の河村庄造教授、寺嶋一彦副学長に開会・乾杯のご挨拶をいただきました。また、歓談中に小林俊郎名誉教授、川上正博名誉教授、堀内宰名誉教授および古野志健男本学同窓会長にお言葉をいただきました。閉会の挨拶は

旧2系1期生の鎌土重晴長岡技術科学大学理事・副学長、江崎尚和鈴鹿工業高等専門学校教授、野田俊治様に行っていただきました。

参加者総数が64名と比較的小規模な会となりましたが、第一期生をはじめとした卒業・修了生にご参加いただけ、旧友との有意義な時間をお過ごしいただけました。当日の会場の様子や集合写真を本報告に掲載しておりますが、それ以外の写真についても豊橋技術科学大学同窓会のホームページ内([http://www.alumni.tut.jp/kikai\\_album/index.html](http://www.alumni.tut.jp/kikai_album/index.html))に掲載させていただいておりますので、そちらもご覧いただければと思います。



旧1系1期生の今泉様ご挨拶



旧2系1期生の鎌土様、江崎様、野田様のご挨拶



当日の会場の様子



豊橋技術科学大学 合同同窓会 2016年12月3日 於：名豊ビル 8F コミュニティホール

### 機械工学系・機械システム工学系(エネルギー工学系)・生産システム工学系 合同同窓会会計報告

#### ■ 収入

会費 (8,000円×64人)	¥512,000
同窓会	¥243,140
収入合計	¥755,140

#### ■ 支出

会場費	¥162,540
撮影写真代	¥75,600
飲食代	¥470,458
受付等業務補助 (5時間×1人)	¥5,000
大学への寄付	¥41,542
支出合計	¥755,140

収入-支出	¥0
-------	----



# 1

## 機械工学系



### 学内近況報告

系長 河村 圧造

同窓生の皆様におかれましては、お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

ご存知のように本学は、平成22年4月に学部、大学院組織を、それまでの8つから5つに更新する学内再編を行いました。そして現在では、旧1系(機械システム工学系)と旧2系(生産システム工学系)は一体となって「機械工学系」として活動しております。すでに在籍学生全員が、入学・編入学当初から「機械工学課程」の所属であり、旧1系、旧2系という名称を全く知らない学生たちです。また再編後に着任された教員も旧系を知りません。そのような教員が今後は増えていきます。

さて現在の系内組織は以下の4つの分野から構成されており、さらに各分野はそれぞれ4つの研究室から構成されています。

- ・機械・システムデザイン分野
- ・材料・生産加工分野
- ・システム制御・ロボット分野
- ・環境・エネルギー分野

学生教育に対する全学的な活動としては「スーパーグローバル大学創成事業」、「三機関(豊橋技科大、長岡技科大、高専機構)が連携・協働した教育改革」や「博士課程教育リーディングプログラム」などがあり、本系も積極的に関与していますが、本系が主体となっている新しい教育プログラムとしては、博士前期課程の「シュツットガルト大学(ドイツ)とのダブルディグリープログラム」、「東北大学(中国)とのツイニングプログラム」などがあります。

また学部教育の質保証の仕組みとしてJABEEがありますが、本系は平成27年度に受審し、6年間の認定を受

けました。審査項目として、本系の教育に対して外部の意見を取り入れる仕組みの構築や、取り入れた意見を考慮して教育システムを改善する項目もございます。同窓生の皆様におかれましては、何らかの形で教育プログラムの改善にご貢献いただいていることと思います。この場を借りて御礼申し上げます。

さて最近の教員の異動についてご紹介いたします。「機械・システムデザイン分野」では、川島准教授が民間企業へ転出され、前野助教が横浜国大准教授として異動されました。一方で伊勢先生が講師として着任されました。また中島先生が、1年の予定で高専・両技科大間教員交流制度によって佐世保高専から着任されました。永井先生が1年の予定でUCLA(米国)へ海外留学中です。「材料・生産加工分野」では青葉先生が助教として着任されました。「システム制御・ロボット分野」では、内山先生が教授に昇任され、阪口助教とともにシステム工学研究室を担当されています。佐野先生は、高専・両技科大間教員交流制度によって豊田高専で教育・研究を行っておられますが、異動の前に准教授に昇進されました。秋月先生が助教として着任されました。「環境・エネルギー分野」では、西川原先生が助教として、川村先生が特定助教として着任されました。横山博史先生が1年の予定でサウサンプトン大学(英国)へ海外留学中です。

本学、本系を取り巻く環境はめまぐるしく変化しておりますが、本系では、今まで以上に社会に貢献できる教育・研究を行うべく一層努力する所存でございます。同窓生の皆様には、引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いです。末尾ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## 教職員紹介(平成28年11月現在)

### 【機械・システムデザインコース】

教 授	足立 忠晴, 河村 庄造, 柴田 隆行, 森 謙一郎
准 教 授	安部 洋平, 竹市 嘉紀
講 師	伊勢 智彦
助 教	石井 陽介, 永井 萌土, 松原 真己

### 【材料・生産加工コース】

教 授	伊崎 昌伸, 福本 昌宏, 三浦 博己
准 教 授	小林 正和, 戸高 義一, 安井 利明, 横山 誠二
助 教	青葉 知弥, 笹野 順司, 山田 基宏

### 【システム制御・ロボットコース】

教 授	章 忠, 寺嶋 一彦, 内山 直樹, 鈴木 新一(兼務)
准 教 授	佐野 滋則, 三宅 哲夫, 三好 孝典, 真下 智昭(兼務)
助 教	阪口 龍彦, 田崎 良佑, 秋月 拓磨

### 【環境・エネルギーコース】

教 授	飯田 明由, 北村 健三, 柳田 秀記 中川 勝文(特定教授), 野田 進(特命教授)
准 教 授	鈴木 孝司, 関下 信正, 中村 祐二
助 教	西川原 理仁, 松岡 常吉, 光石 暁彦 横山 博史, 川村 洋介(特定助教)

## 退職教員より

### 「仲間とともに学んだ燃焼科学」

野田 進

平成6年4月に舞鶴工業高等専門学校から転任し、22年間豊橋技術科学大学にお世話になりました。ここに、無事退職を迎えることになり、感慨無量です。この大学生活を振り返り、ご指導頂いた先輩の先生方、またお世話になった同僚の先生方、事務職員の方々、研究室でも学んだ学生諸君に衷心より感謝申し上げます。

ある日小沼義昭教授（現名誉教授）からの電話が私を豊橋に結びつけることになりました。私が学生の頃、関西燃焼懇話会で大阪大学に所属されていた小沼先生の乱流燃焼のご講演を拝聴したことがありました。小沼先生は新進気鋭の若手研究者として注目されていて、研究分野が近いこともあり、先生の研究から大きな刺激を受けたことを思い出します。

豊橋技術科学大学では、噴流火炎と渦との相互作用についての研究を始めました。私が神戸大学の大学院生時代にお世話になった松本隆一先生、また小沼先生など昔気質の先生方は常々、「基礎研究を行いなさい、教科書に載るような研究をしなさい」と言われていました。こ

の教えに従い、研究テーマを決定したことを思い出します。解析、数値解析を主としながら研究を進めました。最も注力したのは乱流燃焼のモデリングでした。環境問題が大きな社会問題となり、燃焼排出物のモデリングにも研究を広げました。さらにこれらの知見を社会に還元したいとの思いから、環境負荷低減燃焼器の開発に取り組みました。研究室の学生は極めて優秀で、これらの研究の推進に大きな援助を頂きました。

エネルギー枯渇また地球規模での環境問題は燃焼現象に直接関連しています。持続可能な社会の構築に対応する高度燃焼技術の開発が求められています。「見れど飽かぬ吉野の河の常滑の絶ゆることなくまたかへり見む」。現在の競争社会の中で、人麻呂が詠んだような永遠と続く身の丈に合った生活が真に求められているものと思います。

微力ではありましたが、精一杯学生と向き合った大学生活でありました。22年間、本当にありがとうございました。皆様のご健勝と豊橋技術科学大学のご発展をお祈り致します。



写真説明：第8回燃焼における輸送現象の国際会議（1995年7月、サンフランシスコ市）に参加したときの、スタンフォード大学訪問（中心：小沼義昭名誉教授、左：筆者）



## 新任教員より



機械工学系 助教 青葉 知弥

2015年4月に機械工学系の助教として着任しました青葉知弥と申します。よろしくお願い致します。私は、学部から博士課程まで長岡技術科学大学で学び、同大学極限エネルギー密度工学研究センター 末松久幸教授の下で学位を取得し、学振特別研究員として3か月間在籍した後に、本学へ着任いたしました。同じ技術科学大学である本学は長岡技科大と似ている部分が多く、私には馴染み易い環境でした。また、本学の学生は素直で活動的な学生が多く、楽しく教育研究活動に勤めています。

修士・博士課程では、高圧合成法を用いた新しいエキゾチック超伝導体の開発を行ってきました。特に、大気中の水や二酸化炭素を結晶構造内と取り込む性質を持つ超伝導体に関して、その挙動の解明と構造解析に取り組んできました。現在は、巨大ひずみ加工プロセスを利用した高強度な合金の開発の研究に従事しています。実際に使える強い材料を作るべく、日々研究を行っています。

着任してからすでに一年以上たち、豊橋での生活にも慣れてきたところですが、皆さま方にはまだまだお世話になる一方です。一教員として、至らぬ点もあるかと思いますが、本学の研究・教育に貢献できるよう一意専心する所存です。同窓会の皆様方には今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



機械工学系 助教 西川原 理仁

2015年4月に環境・エネルギーコースの助教に着任しました西川原理仁と申します。2015年3月に名古屋大学で博士(工学)を取得し、本学で教員となりました。専門は伝熱工学、多孔体内流れ、宇宙機熱制御で、学生の時はヒートパイプに関する研究を行っていました。ヒートパイプは毛細管力を利用することにより無電力で流体を駆動し熱輸送を行うデバイスであり、私は中でもループヒートパイプという気液それぞれの流れを分離することにより長距離化が可能な環状のヒートパイプを研究対象にしています。特に蒸発器内の多孔体気液二相流の現象解明と設計理論の確立を目的とし研究を行っております。ループヒートパイプは宇宙機熱制御素子として開発されましたが、近年パワー半導体、CPU冷却、排熱利用など地上用としても有用であると期待されています。

また、本学に着任してから柳田教授とともに電気流体力学(EHD)現象を利用した熱制御デバイスに関する新たな研究テーマをスタートさせました。まだ興味のある研究テーマが山ほどあり、これから幅広く行っていきたいと考えています。暮らしに身近な産業に役立つ研究を行い、エネルギー問題などわれわれ人類の直面する課題解決へ貢献していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



機械工学系 講師 伊勢 智彦

2015年4月に機械システムデザインコースに講師として着任いたしました。出身は宮城県仙台市です。前任地である兵庫県姫路市で7年過ごし、この度、本学で御世話になることになりました。豊橋での生活は1年半になりますが、快適に暮らしております。専門は振動工学、機械要素設計、トライボロジーです。主に流体軸受で発生する振動現象について、理論解析と実験を行っています。流体軸受は、油、水、気体を作動流体としているため、非接触で回転軸を支持可能なことから、クリーンな環境や高速回転、長時間の運転が要求される回転機械に広く使用されています。この流体軸受の構造を変更することによって、従来よりも大きな負荷を支持でき、また、従来よりも高速な回転領域でも不安定振動が出ずに、安定して回転できるようなものを生み出すことを目的に研究しております。また、振動を利用した構造物のモニタリングにも興味があり、この精度向上に関する研究を行っています。豊橋技術科学大学の学生は、高専からの編入生が高い割合を占めているからでしょうか、高い技術力を有し、真面目な学生が多いと感じています。数多くの成果を世に出し、数多くの技術が実用されることを目指して研究しております。皆様のご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



機械工学系 助教 石井 陽介

2016年4月1日付けで機械工学系に助教として着任しました石井陽介と申します。出身は兵庫県の加古川市で、地元の中学を卒業後、日本標準時子午線が通る兵庫県明石市にあります明石工業高等専門学校の機械工学科にて5年間学びました。その後京都大学へ編入し、昨年度に同大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻にて琵琶志朗教授のご指導のもと博士の学位を取得いたしました。

豊橋市はどこか私の地元を感じさせてくれるような場所で、京都から越してきたときはとても懐かしい気持ちになりました。今ではすっかり豊橋市民です。また、本学には私と同じく高専出身の方がたくさんいらっしゃるの、まるで何年も前からここにいたような気がしてなりません。

私の専門分野は固体力学です。学生時代は、超音波を用いた非破壊検査に関する研究に従事し、特に積層構造の層間界面の健全性評価法を確立するための、超音波伝搬特性の理論計算や数値シミュレーションを行ってきました。非破壊検査は、自動車や電車、飛行機など我々にとって身近な機械製品の検査に使用されているため、自らの研究が国民の安全性向上に少なからず貢献しているというやりがいを感じることができます。今後は、足立忠晴教授のご指導のもと衝撃工学という新たな分野へ研究の幅を広げていく予定です。

本学に着任して半年が経ちますが、教員や事務の皆様にはいつも気にかけていただき、心より感謝申し上げます。まだまだ未熟者で至らぬ点が多々あるとは存じますが、本学のさらなる発展に貢献できるよう邁進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。



未来ビークルシティ・リサーチセンター 特定助教 川村 洋介

2016年4月より、豊橋技術科学大学、未来ビークルシティ・リサーチセンターの特定助教として着任しました、川村洋介と申します。私の所属先は前述の研究施設ですが、機械工学系の学生を研究室に迎え、同研究施設の寄付講座である先端省エネルギー技術開発講座にて中川勝文特定教授のもと、混相流工学に関連した教育研究を行っています。

私自身は、本学の学部課程に編入学した2009年4月から、工学博士を取得する2016年3月までの約7年間を本学の学生として勉学に励んできました。学生時代には、冷凍サイクルの構成部品として近年注目を集めている「二相流エジェクタ」の効率に影響を与えるとされる衝撃波や膨張波といったエジェクタ内部にて生じる超音速流動現象に関して、実験や数値解析を用いて研究を行ってきました。現在は、低環境負荷である自然冷媒の一つの炭酸ガス冷媒を用いたエジェクタ冷凍サイクルの高効率化に関する研究に着手しています。

本年度4月からは昨年度までの学生から教員へと立場が変わりましたが、私自身、まだまだ未熟であるため、常に初心を忘れず、学生とともに成長していく所存です。学生の指導では、本学の学生生活7年間で先生方や研究室の先輩や後輩、同僚から培った知識や経験を生かしたいと考えています。何分、若輩者ではありますが、同窓会の皆様には今後とも多くのご支援、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 機能材料・構造システム研究室(足立研究グループ)の近況報告

伊賀 千尋、木村 竜也、平岡 鉦一

本学卒業生並びに修了生の皆様方におかれましては  
お元気でご活躍のことと存じます。今年度の機能材料・  
構造システム研究室の近況についてご報告申し上げます。

現在、本研究室では、足立忠晴教授、石井陽介助教  
の下、博士前期課程 11 名、学部生 5 名が、材料力学お  
よび材料工学の両面から、様々な目的に適した機能を有  
する材料および構造を実験的、理論的方法、数値シミュ  
レーションにより研究、開発、設計を行っております。

今年度は、本研究室にとって新たな変化の年となりまし  
た。今年度の春より、石井陽介助教が着任されたことで、  
研究の分野がより一層広くなり、今まで未知であった分野  
の研究に励めるようになりました。

現在本研究室で進められている研究内容として大き  
く 4 つに分けられます。まず 1 つ目は高分子材料および  
高分子系複合材料の力学的特性の評価と材料設計です。  
高分子材料および高分子系複合材料は軽量で優れた力  
学的特性を有しています。本研究においてはこの材料の  
力学的特性評価を行うとともに、さらに優れた力学的特  
性をえるための材料設計、開発を行っております。2 つ  
目は衝撃エネルギー吸収のためのシステムの開発・設計で  
す。自動車等の輸送車両が物体に衝突するとき、人の安  
全のために車体を圧潰することで衝突時のエネルギーを吸

収するということが行われおり、本研究では効率よくエネ  
ルギ吸収できる構造要素を開発することを目的としてい  
ます。またスマートフォンなどのモバイル機器の信頼性を  
高めるためのエネルギー吸収の研究も行っています。3  
つ目は超音波による力学的特性の非破壊計測および微小  
欠陥の非破壊評価です。超音波により材料および構造  
の非破壊検査や超音波を用いた非破壊的に力学的特性  
を評価します。また、微視き裂などの微小欠陥の検出を  
行うシステムを開発することを目的としています。さらに、  
最近では、ソフトアクチュエータの研究を始めており、内  
圧による構造物の変形を利用して新たな機能を有する構  
造要素の開発、設計も行っています。

詳しい研究内容に関しましては、機能材料・構造シス  
テム研究室、足立研究グループのホームページをご覧い  
ただければ幸いです。

本研究室は全体として和やかな雰囲気であり、メン  
バー間の距離も近く、積極的に意見交換を行うこともし  
ばしばです。内容は研究や学業にとどまらず、先輩後輩  
の垣根を超え、ともに切磋琢磨しつつ研究や学業に励ん  
でいます。

最後になりましたが、卒業生並びに修了生の皆様方  
のご活躍、ご発展を心よりお祈り申し上げます。



## 材料機能制御研究室の近況報告

佐藤 建

卒業生・修了生の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと存じます。現在、材料機能制御研究室は戸高義一准教授の下、小坂和子秘書、学生 16 名（博士後期課程 1 名、博士前期課程 8 名、学士課程 7 名）の総勢 18 名となっております。2017 年度の一年間ポスドク研究員として務められた足立望研究員は本年春から京都大学原子炉実験所に特任助教として移られました。研究室を強く支えてきた足立さんの異動は寂しくも有りますが、秋季から新たに中国からの留学生や社会人学生を迎えたことで新風吹き込み、これまでに負けぬよう一層旺盛に研究に励んでおります。

当研究室では巨大ひずみ加工の一つである High-Pressure Torsion (HPT) 加工を用いた金属材料の高機能化と低負荷元素からなる熱電材料の高特特性化、大きく分けて 2 つのテーマについて研究しております。前者では鉄やチタン、金属ガラスといった種々の金属材料を HPT 加工によって組織制御することで高機能化に成功し、現在はそのメカニズム解明に取り組んでおります。特に、純鉄では HPT 加工を施すことで高引張強度・高延性を両立する特異な特性が得られ、量子ビームを用いた構造解析に取り組んでおります。後者では他の熱電材料と比し

て安価、軽量、無毒といった長所を持つ CaMgSi 合金の作製に成功し、高効率化を目指しています。以上のテーマだけでなく、HPT 加工した鉄合金を用いた水素脆化のメカニズムの調査や金属組織による潤滑油膜の性状制御といった優れた構造材料の設計の為の研究展開を図っています。また、学内の場だけに留まらず、様々な学会の場での研究発表も精力的に参加し、メンバーひとり一人の研鑽に努めています。

研究活動だけでなく、新入生歓迎会や打ち上げ、研究旅行等の恒例行事も活発に行うことで研究室内の交流を密にしております。今年の研究室旅行は、信州は穂高連峰の麓、上高地へ行きました。丁度紅葉の始まる時期にあたり、普段とは異なる環境のもと、リフレッシュできました。

最後となりましたが、卒業生・修了生の皆様の益々のご活躍を祈念しますと共に、今後とも研究室にご支援下さいますようお願い申し上げます。また、大学の近くにいらっしゃいます機会が有りましたら、ぜひともお立ち寄り下さい。研究室の近況につきましては研究室ホームページ (<http://martens.me.tut.ac.jp/>) にも掲載しておりますのでご覧頂ければ幸いです。







## 計測システム研究室の近況報告

長澤 潤

卒業生・修了生の皆様におかれましてはますますのご清祥のこととお慶び申し上げます。

現在計測システム研究室では、章忠教授、三宅哲夫准教授、昨年度着任された本研究室出身の秋月琢磨助教の3名の元、28名の学生が日々研究活動に励んでいます。後期からはさらにフランスと中国から2名の留学生がメンバーに加わる予定で、とても楽しみにしております。

本研究室では、「人間とシステム」、「人間と自動車」の2つをキーワードに、人にやさしい技術の確立を目指しています。研究対象は幅広く、研究室メンバーは主に①ウェブレット変換の応用研究、②音声認識のための信号処理に関する研究、③安全運転のための運転支援システムに関する研究、④鏡面反射部品検査のための画像処理に関する研究、⑤身体動作解析に関する研究の5つのグループに分かれてそれぞれ研究を行っています。研究室メンバーはとても仲が良く、研究についての議論が積極的に行われています。また、研究活動に限らず、毎年系で行われるスポーツ大会にも積極的に参加してお

り、昨年度はバスケットボール大会で優勝することができました。

研究室行事としては、新入生歓迎会、忘年会、追いコンの他、研究室内の夏季中間報告会后に榊パークでバーベキューを行っています。バーベキューでは実家が漁師をやっているメンバーが立派な魚を持ち寄ったりして大盛り上がりしました。

また、オープンキャンパスの研究室公開ではアクティブノイズコントロールの簡単なデモや、ドライビングシミュレータの試乗会を行っています。特に3面の大型スクリーンを使った本格的なドライビングシミュレータは小さなお子さんから大人まで人気があり、毎年大盛況です。

ご多忙とは思いますが、もし豊橋の近くへ来られることがありましたら是非ともお気軽にお立ち寄りください。研究室一同心よりお待ちしております。最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



## 環境熱流体工学 (北村・光石) 研究室の近況報告

出羽 祐貴

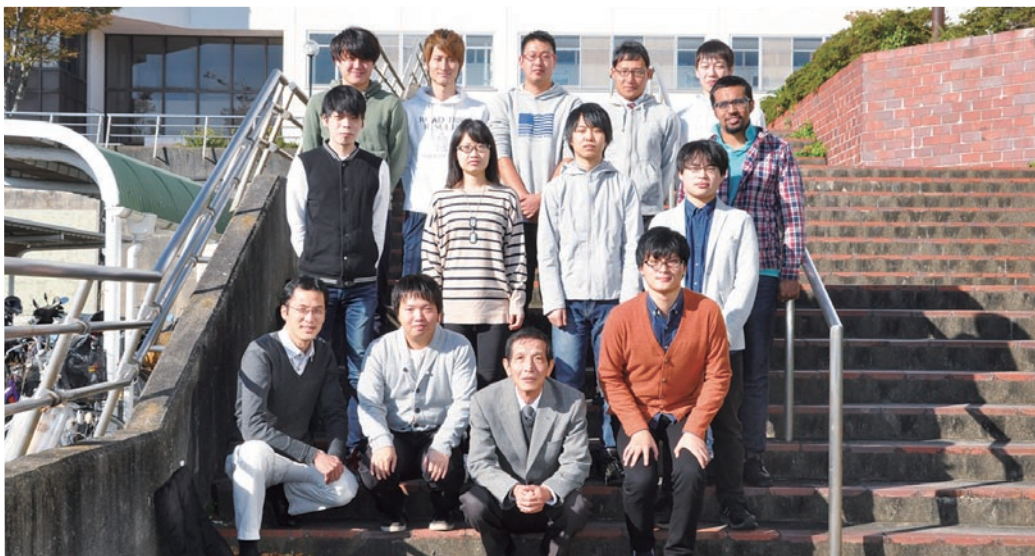
卒業生・修了生の皆様、お元気でお仕事やご家庭での生活にご活躍のことと存じます。「環境熱流体工学」研究室の近況について報告させていただきます。さて、「環境熱流体工学」研究室と言っても、だいぶ前に卒業されたOBの方々にはなじみのない名前かも知れませんが、初めに研究室の紹介をしておきます。私達の研究室は、北村健三教授、鈴木孝司准教授、光石暁彦助教の3名の先生方からなる研究室で、平成21年4月に学科再編で旧機械システム工学系と生産システム工学系が合併し、新「機械工学系」となった折に、環境・エネルギーコース内の一つの研究室として発足しました。北村・光石先生の専門分野は「対流伝熱」、鈴木孝司先生の専門分野は「液滴の微粒化」ですので、両者に共通するキーワードとして、環境熱流体工学の名称が付けられたと伺っています。

私は環境熱流体工学研究室の北村・光石研究グループに所属していますので、今回はこの研究グループの紹介をさせていただきます。現在研究グループには、M2学生が5名、M1学生が4名(うち1名は海外語学研修で休学中)、B4学生が4名所属しています。なお、添付の写真はグループの集合写真です。研究内容は対流伝熱を中心とした基礎および応用研究で、北村先生が主に実験を、光石先生が数値解析を担当されて

います。北村先生は、従来の自然対流や強制・自然対流に関する基礎研究から、興味の対象が次第に応用研究に移りつつあり、現在は実用の熱交換器などでみられる加熱円柱や平板が複数配置された体系下における自然対流や強制対流の流動・伝熱問題を中心とした研究をされています。光石先生は、自然対流の乱流遷移過程を数値計算により模擬すべく、計算手法の開発に精力的に取り組んでおられます。我々院生・学部生も、先生方の指導の下、日夜実験や解析に取り組んでいます。

さて、卒業生の皆様にお知らせがあります。北村先生は来年(平成29年)3月に、本学での38年間に亘る教育・研究生活を終えられ定年を迎えられます。研究室卒業生、在学生一同、先生の長年にわたるご指導に心より感謝を申し上げる次第です。なお、本研究グループに在籍している学生は、来年度以降も引き続き環境熱流体研究室に所属して、鈴木孝司先生、光石先生のご指導の下、研究活動を続けていく予定です。卒業生の皆様には、リクルートその他で本学を訪問されることもあるかと思いますが、その際は、両先生をご訪問ください。研究室一同、皆様のご訪問を心からお待ちしております。

最後になりましたが、卒業生の皆様方の益々のご活躍とご健康をお祈りするとともに、今後とも本研究室にご支援を頂きますようお願い申し上げます。



# 2

## 電気・電子情報工学系

### 学内近況報告

准教授 村上 裕二

本学の卒業生・修了生の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。系再編後の学年も進んでほとんどの学生が新系所属となり、日頃の議論で旧系を意識することがなくなってきました。大学全体での文部科学省スーパーグローバル大学創生事業採択に伴い、講義では教員が日本語で話しているものの、いよいよ多くの講義で主教科書に洋書を採用し始めた他、板書や配付資料の随所で英語化が進んでいます。グローバルコース新設を前に学生の不満や悲鳴も具体的になってきており、ブレーキとアクセルの意見を戦わせながら、より一層本学に合ったグローバル教育を練り上げていきたいところです。

さて、平成28年度の2系で1番の話題といえばJABEEの受審です。2度目の受審ではありますが、直前数ヶ月は担当の上原先生を中心に頻繁に会議を重ねて書類の整理や規則・制度の確認がなされました。その甲斐あって10月の本審査ではほぼ滞りなく審査が進み、概ね良好な評価をいただきました。教育についてもオープンで検証可能な仕組みをもった国際基準に合致した組織として、たとえば留学生が母国で書類的に説明できる保証となっています。

異動については27年度末に集積電子システム分野教授・本学副学長の石

田誠先生と、機能電気システム分野教授の長尾雅行先生が、定年退職され、3月7日にはお二人の最終講義がありました(写真)。両先生とも、本学設立当初より長らく、教育・研究・大学運営等に多大なるご尽力頂きました。石田先生は学長顧問として、長尾先生は国際教育センターの特任教授として引き続き本学のためにご尽力いただいております。また、平成27年度の高専人事交流で茨城高専から材料エレクトロニクス分野に教授としていらしていた山口一弘先生が1年の任期を終えて茨城高専に戻られました。技術専門職員だった足木光昭様も退職なさいました。平成28年2月には情報通信システム分野准教授に竹内啓悟先生が、同3月には材料エレクトロニクス分野教授に内田裕久先生が、それぞれ着任されました。短期的には、秋田先生がいわゆる在外で本年度1年間UCLAに赴任、飛沢様が10月から約3ヶ月の育休取得で、その間足木様が短期雇用でその業務を引き受けています。

最後になりましたが本年10月には開学40周年を迎え、

2系卒業生のみなさまにも記念事業で様々なご支援を賜りました。厚く御礼申し上げます。今後とも是非ご協力の程、よろしくお願いたします。



最終講義後の懇親会での石田先生と長尾先生

## 教職員紹介(平成28年12月現在)

### 【材料エレクトロニクス分野】

教 授	福田 光雄, 松田 厚範, 内田 裕久, 武藤 浩行 *1
准 教 授	服部 敏明, 中村 雄一, 石山 武, Lim Pang Boey*2, 高木 宏幸
助 教	河村 剛, 石井 祐也, 後藤 太一, 加藤 亮 *3

### 【機能電気システム分野】

教 授	櫻井 庸司, 滝川 浩史
准 教 授	須田 善行, 村上 義信, 稲田 亮史
助 教	東城 友都, 針谷 達
助 手	川島 朋裕
技術専門職員	日比 美彦

### 【集積電子システム分野】

教 授	若原 昭浩, 澤田 和明, 石井 仁 *4
准 教 授	村上 裕二, 河野 剛士, 関口 寛人, 岡田 浩 *5
講 師	高橋 一浩
助 教	秋田 一平, 山根 啓輔, 岩田 達哉, 赤井 大輔 *5
技術専門職員	飛沢 建

### 【情報通信システム分野】

教 授	大平 孝, 市川 周一, 上原 秀幸
准 教 授	田村 昌也, 竹内 啓悟
助 教	宮路祐一, 藤枝直輝, 坂井尚貴

\*1 総合教育院, \*2 国際教育センター, \*3 研究基盤センター,

\*4 テacherメードバトンゾーン特任, \*5 エレクトロニクス先端融合研究

## 退職教員より

### 「定年退職後の今と37年間の回想」

元 電気・電子情報工学系 教授、副学長(研究担当) 石田 誠 (いしだ まこと)

今年で40年の歴史をもつ大学となり、開学当初から振り返ると、感慨深いものがあります。私も今年の3月で37年間の本学での勤めを終え、定年退職となりました。4月から特別顧問の職を拝命し、長年滞在したC-606室を空け、事務棟の3階に特別顧問室(40周年記念事業推進室担当の伊東さんと秘書の門井さんと同居)に引っ越しをいたしました。微力でも大学の発展に貢献できればと思っています。大学に来られたときはお寄り下さい。今は、高専の校長先生を訪問し意見交換しながら本学をアピール、プレステージレクチャーの企画・運営など、また、大学全体あるいはこれまで大学として手をつけていないことを担当できればと思っています。

同窓会関係では、OBの教職員も含めて、ネットワークの構築が急務と感じました。今年40周年事業をそばで見ている、OBの皆さんにお送りした事業案内の郵便物は1万件弱でしたが、大変な作業と費用となります。(返送も410件)今後のことを考えると、同窓会と大学で今年購入した新たな同窓会ネットワークシステムを皆さんで利用し、ネットで連絡網を構築していくことが必要と思います。皆さん、新しいメールアドレス等の更新を同窓会ホームページの会員専用サイトで登録をお願いしたいと思います。今後OB教員も追加できればと思います。豊橋技術科学大学同窓会が皆様にとって有益なものになることを期待しています。私も、OB教員のネットワーク構築とそれによる活動ができればと考えていますが、その活動に皆様も参加していただければと構想を練っています。具体的な内容はこれからです。またの機会にご連絡できればと思います。

さて、開学間もない、1期生の4年生が研究室配属された1979年(昭和54年)から、37年間、教務職員から助手、講師と全ての教員職を経験させていただきましたが、あっという間のように感じられます。このことは退任挨拶の広報誌「天伯」(Vol.141, 2016.02、ホームページから見られます)に寄稿させていただいていますが、以下

に一部を再現させていただきます。

「88番目に設立された国立大学として、伝統ある大学と同じことをしては、88番目になってしまう」との初代学長の榊米一郎先生の言葉が、若い私の脳裏に焼き付きました。今でも見学案内の最初に使う言葉です。1期生と電子デバイス大講座の先生(中村、西永、安田、松浦、服部、朴、石田)で2インチの半導体ラインをNECの生産技術の方々と共に立ち上げ、トランジスターが動いたとき、クリーンルームで万歳をしたことが思い出されます。

(写真1)



1. 立ち上げメンバー(右前から、西永先生、中村先生、朴先生、安田先生、最後部左から服部先生、石田と1期生)

紆余曲折を経て1994年に固体機能デバイス施設という新しいクリーンルーム施設が完成し、これから本格的に研究の第2ステージと思ったときに、中村哲郎先生が突然亡くなり途方に暮れました。ここから、一番の試練の時であり、全力投球の連続でしたが、2003年VBLの設立にこぎ着け、最終的に運営・維持費を獲得できたのは最大の成果だと思っています。

その間、1999年から10年間、韓国との次世代半導体開発(JSPS-KOSEF交流事業、吉田明先生リーダー、後半石田担当)、2002年、西永頌学長とヒアリングに臨んで獲得できた21世紀COE(インテリジェントヒューマンセンシング)、そして2007年GCOE(インテリジェントセンシングのフロンティア、写真2:リヨンで採択を知る)と

続けてリーダーを務めさせていただき、その成果を元に2010年本学で初めての研究所EIIRIS（エレクトロニクス先端融合研究所）がスタートしました。これは、当時の榊佳之学長の構想といくつかのプロジェクト（テニユア-トラック事業、テーラメードバトンゾーン事業、先端融合研究施設等）が平成21年の同時期に採択され、素晴らしい研究所になりました。大変運が良いとつくづく思いました。その後の2013年、文科省が研究大学（研究大学強化促進事業採択\*）として全国22機関（19大学と国の3研究機関）の一つに本学を採択（東海、北陸地区では本学と名大のみ）し、10年間の支援を得たことの足がかりとなったと思います。この研究大学採択は、皆さん大いに誇りに思ってくださいと思います。

ここに全てをあげることはできませんが、37年間全力で全うすることができたのは、私と共に悩み、努力し、支えていただいた素晴らしい方々と巡り会え、良き学生の皆さんに恵まれたことです。このように運の良い自分であると常に感じています。ここにお世話になったすべての皆さんにお礼を述べて終わりたいと思います。ありがとうございました。

\*[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kagaku/sokushinhi/1338460.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/sokushinhi/1338460.htm)



2. リヨンでの国際会議中に GCOE 採択の連絡

## クリーンエネルギー変換研究室の近況報告

博士前期課程1年 保田 哲志

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で大いにご活躍されていることと存じます。

現在、クリーンエネルギー変換研究室は櫻井庸司教授、稲田亮史准教授、東城友都助教のもと、修士学生19名、学部生8名の計27名で日々研究に励んでおります。

近年、二次電池はスマートフォンやノートパソコンのような携帯電子機器及び、ハイブリッド自動車・電気自動車や電力貯蔵といった大型の用途への応用も進み、より高エネルギー密度で長寿命な二次電池が必要とされている中、高安全であることも求められており、その根幹を成す新しい材料・プロセス・評価技術の研究開発が重要になっています。これらの電気化学エネルギー変換デバイスの高性能化・低コスト化・高安全性化に資する研究開発を我々は幅広く展開しています。

主に以下の4つのテーマを中心とした研究に取り組んでいます。

- (1) 次世代型リチウムイオン電池の研究
- (2) 多価イオン電池の研究

(3) 全固体リチウムイオン電池の研究

(4) 電池に関する新規計測技術の研究

研究室の行事としましては、春に新4年生歓迎会、冬には忘年会を開催しております。また、2012年から毎年研究室内の親睦を深める目的で『櫻井・稲田杯』としてボーリング大会を開催しています。昨年は12月に第四回大会を開催し、研究室とはまた違う雰囲気で大いに盛り上がりました。今年の夏季休業には、研究室学生旅行として、三重県のキャンプ場へ行き、バーベキューやビンゴ大会を行い、自然の中で過ごすことで心も体もリフレッシュすることができました。今後もこのような行事が増えることを願っています。

ご多忙とは存じますが、豊橋方面へ来られる機会がございましたら、お気軽に研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心から歓迎いたします。先輩方の大学在学中、卒業・修了後のお話や現在の職場の経験談などの貴重なお話を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、諸先輩方のさらなるご活躍とご健康を心よりお祈りしております。



## スピン・エレクトロニクスグループ

博士前期課程1年 白樫 善

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

スピン・エレクトロニクスグループでは、井上光輝先生が理事・副学長に就任され、2016年より新しく内田裕久先生が教授として本研究室を主宰されています。中村雄一准教授、Lim Pang Boey 准教授、高木宏幸准教授、後藤太一助教の教員5名、山本ゆみこ秘書、および学生25名（ポスドク1名、博士後期課程4名、博士前期課程12名、学部8名）で構成されています。

本研究室では、磁性材料とその応用を目的として研究に励んでおります。特に、磁性フォトニック結晶、磁気光学空間光変調器、磁気ホログラムメモリ・3次元ディスプレイの開発が進められ、国内外から高い評価を頂いております。

また、スピン波を用いた電荷非輸送型の情報処理デバイスの開発を行っています。近年では、スピン波の位相干渉を利用した論理演算素子の実証を行い、省エネルギーな次世代の情報処理デバイスの開発を目指しております。

さらには、排熱エネルギーの再利用などで使われる熱電変換材料の開発をしています。熱とスピン流とを融合させたスピンゼーバック効果を用いた発電技術の研究が行われております。

最近では、磁気の中核に据えた幅の広いテーマの追求を忘れず、3次元磁化の可視化や磁気光学Qスイッチレザ、マルチフェロイック材料、メタマテリアルの開発など、新しいテーマを積極的に取り入れ、常に世界最先端を意識した研究を進めております。

本研究室では、様々な分野の最前線で活躍されている方をお招きしご講演いただく「磁性研ゼミナール」が行われており、2016年3月より第100回を迎えることができました。国内外の著名な方々から聴講や議論を行うことができ、研究室として非常に有意義な行事として続けられております。

研究室イベントでは、春の遠足やビアパーティなど恒例行事を始めとして、研究メンバーとの交流を深める活動を今も変わらず行っております。今年度の研究室旅行ではキャンプ場で行われ、山登りや洞窟探索など今までにないアクティブな旅行となりました。

本研究室について、リニューアルされた研究室のウェブページ (<http://www.spin.ee.tut.ac.jp/index.html>) にて公開されています。また、Twitter(@tut\_spin) より最新のニュースをお知らせしております。研究成果や近況について公開しておりますので、是非ご覧ください。我々は、卒業生・修了生の皆様がなされたことが基盤となり、このような充実した今の研究活動があるものだと考えております。心から感謝致しますとともに、より一層、この研究室が活躍できますよう日々努めて参りたいと存じます。

豊橋にお近づきの際には、お気軽に研究室へとお立ち寄りください。研究室員一同、心よりお待ちしております。先輩方の貴重なお話しをお伺いできれば幸甚です。最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍とご健康を研究室一同、心よりお祈りしています。



B4 歓迎会



## 学内近況報告

情報・知能工学系 系長 石田 好輝

同窓生の方々におかれましてはご健勝のことと思います。また、このたび本学40周年の行事では、多大のご支援を頂き誠にありがとうございました。

本学建学後40年、大学法人化後11年、大学再編後6年がすぎ、現在グローバル化、少子化の波に押され、また大きく国際化へ舵をきろうとしております。思えば、再編時に情報・知能工学系のスローガンを「情報と知能で世界を拓く」としました。今考えれば、「グローバル化によって世界から拓かれる」という面も考える必要があると思考します。(ちなみに、そのときボツになったもう一つの家は「二つのiで世界を拓く」でした。)

毎年、年末になると京都のある住職がその年を漢字1文字で表すという行事があります。最近の情報・知能工学系およびそれを取り巻く環境を1文字で表すと「激」ではないかと思えます。「激」変(ITによるフラット化)、「激」震(3.11東北大地震、熊本地震)、「激」動、「激」烈、「激」務、…等々、あげればきりがありません。

昨日、防災訓練があり研究室の学生と一緒に陸上競技場まで避難しました。その時、留学生が、非常に効率的な避難だと驚いていました。それを聞いた私はどこが効率的なのかと驚きました。尋ねると、学生は学生証でスキャンして安否確認をしております(ちなみに教職員は紙に名前を書いた)それに驚いたようでした。

日本人の学生も多様化していますが、これに全く文化、習慣など異なった各国からの価値観が加わってきます。これを激変だ、と受け止めるとやっていけません、面白いと考えると毎日ワクワクするほど楽しい出会いがあります。そういえば昔は外国人のことをエイリアンとっていたらしいです。いまではフォーリンスチューデントというのもやや違和感があり、インターナショナルスチューデントとっております。いずれこの同窓会報も英語で書く日が来るかもしれません。

1週間後には2系(電気・電子情報工学系)と一緒にJABEEを受診します。そこでも、グローバル化やバイリンガル授業の事には言及すべきなのか、どうか少し議論になりました。多分、グローバル化の程度や質を審査するわけではないので、言及すべきではないのでしょうか。このような激動の時代にあって何事も、中庸(「適当」というと問題発言)が肝心とわりきり、先人の知恵にすぎるほかございません。

教員の近況をお伝えしますと、関野秀雄先生、齋藤暁先生、国際交流センターと兼務をされていた桂田浩一先生が退職されました。関野先生が最終講義「存在と認識」で残された名言は「お前の仕事は真実であるには、当たり前すぎる」でした。

諸先輩がた、同窓生の皆様におかれましても、お身体をいとわれると同時に今まで同様、あたたかく今後の情報・知能工学系を見守って頂ければ幸甚です。

## 職員一覧及び学生現員(平成28年11月現在)

### 【計算機数理科学分野 (Computer & Mathematical Sciences)】

氏名	職名	専門分野
石田 好輝	教授	知能システム学, 情報生命学
藤戸 敏弘	教授	計算機科学
河合 和久	准教授	コンピュータサイエンス
栗田 典之	准教授	量子生物学, 計算科学
後藤 仁志	准教授	計算化学, ハイパフォーマンスコンピューティング
小林良太郎	准教授	計算機工学
相田 慎	助教	計算量理論
木村 慧	助教	離散最適化, アルゴリズム
原田 耕治	助教	免疫システム科学, 複雑系

### 【データ情報学分野 (Data Informatics)】

氏名	職名	専門分野
青野 雅樹	教授	情報検索, データマイニング
梅村 恭司	教授	情報工学
増山 繁	教授	自然言語処理, Webマイニング, アルゴリズム工学
秋葉 友良	准教授	知能情報学
加藤 博明	講師	分子生命情報学
渡辺 一帆	講師	統計的学習理論, 機械学習
小林 暁雄	助教	自然言語処理, データマイニング
立間 淳司	助教	情報検索, パターン認識
吉田 光男	助教	ウェブ工学, 自然言語処理
井佐原 均	教授	言語情報学 (情報メディア基盤センター 兼任)
土屋 雅稔	准教授	自然言語処理 (情報メディア基盤センター 兼任)

### 【ヒューマン・ブレイン情報学分野 (Human & Brain Informatics)】

氏名	職名	専門分野
高橋 由雅	教授	分子情報工学
中内 茂樹	教授	知覚認知情報学
堀川 順生	教授	神経科学, 聴覚情報処理
三崎 幸典	教授	(高専交流人事)
北崎 充晃	准教授	心理物理学, 認知神経学
福村 直博	准教授	計算論的神経科学
村越 一支	准教授	計算知能
桂樹 哲雄	助教	分子情報工学, 情報生命学
杉本 俊二	助教	神経科学
東 広志	助教	生体信号処理
鯉田 孝和	准教授	視覚神経科学 (エレクトロニクス先端融合研究所 兼任)
南 哲人	准教授	認知神経科学 (エレクトロニクス先端融合研究所 兼任)

### 【メディア・ロボット情報学分野 (Media Informatics & Robotics)】

氏名	職名	専門分野
岡田美智男	教授	認知科学・社会的ロボティクス
栗山 繁	教授	画像/映像/CG関連メディア
三浦 純	教授	知能ロボティクス
金澤 靖	准教授	コンピュータビジョン, 画像処理
菅谷 保之	准教授	コンピュータビジョン
山本 一公	准教授	音声言語情報処理
大村 廉	講師	ユビキタス・コンピューティング, システムソフトウェア
大石 修士	助教	コンピュータビジョン
神納 貴生	助教	画像信号処理

#### 【事務関係】

事務職員：加藤 恵子 (C棟事務室)  
 宮崎 早苗, 山本 沙愛, 神谷 幸子 (F棟事務室)  
 技術職員：宮脇 治雄, 片岡 嘉孝, 小西 和孝

#### 【学生現員】

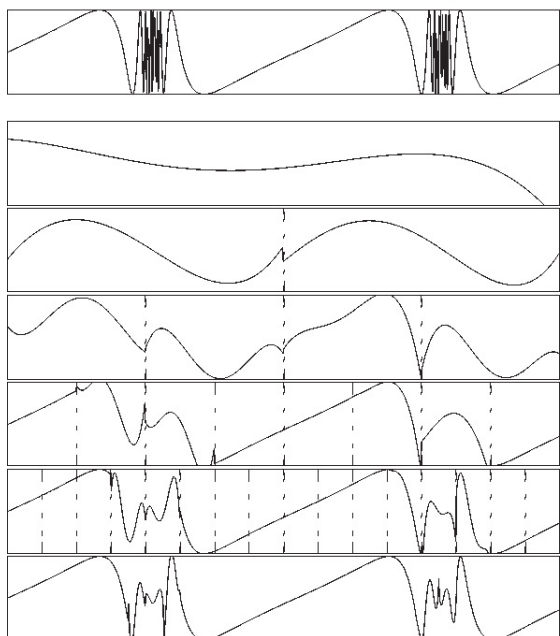
学 部：1年次 11名, 2年次 13名, 3年次 96名, 4年次 120名  
 博士前期：1年次 84名, 2年次 122名  
 博士後期：12名

## 退職教員より

「存在と認識の階層について」

情報・知能工学系 名誉教授 関野 秀男

### Multiwavelet (k=5)



上に  $f(x)=\sin(\tan(6x))$  というかなり複雑な関数の Multiwavelet 多重解像度解析を示しました。下へ行くほど高い解像度による関数の再現です。かなり複雑な関数も解像度間の差分に分割するアイデアにより有効に再現できることがわかります。

我々自然科学屋は無限小とか無限大への信仰があって、物理学の基本法則は微分・積分方程式で表現するのが常です。その極限にせまるために方程式を差分化してコンピューターでがんがん解くのがシミュレーション屋です。従って解像度はゼロからプラス無限に向かって増大させることによって、真理に近づいてゆくような気持ちになることが多いわけです。真理はあくまで無限大の解像度の彼方に存在していて、それが見えないのは人間の物理的能力が低いせいだとして納得するわけです。情報屋のなかに迷い込んで初めて気が付いたのは、こうした「物理学信仰」は必ずしも工学部ではポピュラーとは限らないということでした。伝統的信号処理屋は人間の観測に

あたる解像度ゼロを基準にして、どんどん負の方向に解像度を落とし、どこまでいったらもとデータの“特徴”を抽出できるのかといったことに一生懸命です。

これは人間の観察を最終決定値としたまったく価値観の異なる信仰体系で、強いて言えば「人間教」といったところでしょうか？何を信仰するのは本人の自由ですが、「物理教」のほうはかなり偶像崇拜を禁じた一神教の世界に近いのでしょうか？

そろそろ 100 年近くもたつ量子力学の世界は、偶像にもしようがない「量子」という意味不明の存在に関する微分方程式で記述されています。最近量子 Walk による量子情報シミュレーションの研究を進めています。そうした微分・積分とかの高等数学なしでも、数値シミュレーションによる定量予測が可能であることが分かってきました。近い将来「中学数学での量子論」を展開して行く予定です。



## 聴覚情報研究室 (堀川研) の近況

情報・知能工学系 教授 堀川 順生

研究室を卒業・修了された皆様、いかがお過ごしでしょうか。

私は、今から18年前、1998年に本学に赴任しました。早いもので、本年度で退職になります。今年の初めには、退職に向けての準備をしなければいけないなあなど考えていましたが、そのような時間は全くなく、あっという間に年の半ばを過ぎてしまいました。今年は10月にJABEE(日本工学教育認定機構)の認定審査があり、その責任者を務めていることと、また、今年12月に本学共催で行われる生物音響学会(国際会議)の大会長を務めていることの二つが重なり、いつもの年よりも忙しくなっていました。この忙しさのまま、退職を迎えます。

研究室に関しては、6年前(2010年)の学科再編で、知識情報工学課程(旧7系)は、情報工学課程(旧4系)と合併して情報・知能工学課程(新3系)となり、研究室の名前も堀川研究室から聴覚情報研究室に変わりました。現在の研究室のメンバーは、杉本俊二助教と、学生はM2が8名、M1が1名、B4が2名です。B2プロジェクト研究の学生が3名います。10月初めから沼津高専の宮下真信教授の研究室の学生1名がインターンシップで来ています。来年度は、M1の学生は本系の石田芳輝教授に預け、B4の学生は他の研究室に移ることになっています。研究に関しては、動物(モルモット)を用いた聴

覚生理学の実験と、人の脳波計測による生理心理学的の研究を続けています。動物実験では、小島久幸講師(東京医科歯科大学)との共同研究で「学習後の聴覚皮質活動の変化」を調べています。また、津村実教授(京都市立芸術大学)との共同研究で、老化による「聴神経の位相同期性の変化」について動物(モルモット、ラット)を用いて調べています。宮下教授とは「補完に関する聴覚皮質のモデル」の共同研究を行っています。脳波計測では、「意思決定の脳機構」の研究や、石田教授と協力して、「笑いの脳機構」の研究を行っています。また、本学を退職された新田恒雄教授(現早稲田大学)と今年東京理科大に移られた桂田浩一准教授と協力して、「脳波による言葉の認識」の研究を行っています。

研究室の行事は、最近は歓迎会と送別会のみとなり、研究室旅行は行わなくなりました。過去の研究室旅行が懐かしく思い出されます。特に、長良川のカヌー教室、富士川のラフティング、鍾乳洞の洞窟探検、常滑焼のろくろ体験、郡上八幡での食品サンプル作り、三重県の沢登りが印象に残っています。書いていて気付きましたが、これらは全て体験型ですね。そしてこれは、自分で体験するものが良く記憶に残ることの実証体験でもあります。

最後になりましたが、卒業・修了生の皆様には今後ますますご活躍されることを心からお祈り申し上げます。





## グラフィックメディア研究室(栗山研)の近況

情報・知能工学系 助教 神納 貴生

卒業生・修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

本稿では、情報・知能工学系のグラフィックメディア研究室の近況をお知らせ致します。現在、当研究室には学部4年生が6名、修士1年生が3名、修士2年生が5名の計14名の学生が在籍しております。

ここ数年の大きなイベントとしましては、2015年9月に研究室の同窓会を実施しました。これは金子先生が退職された後に栗山先生が研究室を引き継がれて10周年という節目を記念して金子先生や多くのOBの方々にご参加頂き、同日にPLATで開催された研究発表会と共に盛況のうちに旧交を温めることができました。その翌日には本学のミニツアーも企画し、新設された教室や設備を見学して頂きました。ちなみに研究室に関する設備では、中内研究室の場所の移動に伴い、D棟の照明実験室をC棟へ移転中です。

研究室の年間イベントとしては、歓迎会、バーベキュー、球技大会、忘年会、追いコン旅行と今も変わらず研究室メンバーで楽しんでおります。集合写真は2016年7月のバーベキューで撮影したものです。なお、バーベキューは現在も、配属されたばかりのB4学生が企画し、知恵を絞ってサプライズ料理をふるまってくれています。リクリエーション以外にも、最近では研究室秘書(写真左下隅)の方による英会話教室に加えて、先輩が後輩の発表を指導する会合等、学生が主体的に計画して運営する行事も

増えてきました。

近年の研究テーマにつきましては、イラストの画調や描画様式に基づくスタイル検索、デジタル照明機器の知的制御、ハイダイナミックレンジ画像の物体検出や色彩補正、およびイメージセンサを用いた可視光通信や画像化コード等、その内容は多岐に渡っています。イラストのスタイル検索に関しては、情報処理学会から5種類の賞を受け、国際会議でもベストペーパー賞が授与されました。照明機器の制御に関しては、地元企業と共同で開発した対話的なイルミネーションシステムが冬期間中の「とよはしキラキラ☆イルミネーション2016」のイベントで豊橋駅前に常設展示されており、その他にもポートレート撮影のための照明ロボット等を開発しています。それ以外の研究テーマに関しても、多くの成果を論文誌等で発表しています。モーションデータの研究に関しては一時期休止状態でしたが、研究室OBの向井さん(現東海大講師)と共同申請した科研費をきっかけに研究を再始動しており、2016年度は久々にSIGGRAPHにおいても研究成果を口頭発表されました。

ご多忙とは存じますが、お近くにお越しの際はお気軽に研究室へとお立ち寄り下さい。最後となりましたが、卒業生・修了生の皆様のさらなるご活躍とご健康を心よりお祈りすると共に、今後とも当研究室を暖かく見守って頂きますよう心からお願い申し上げます。



# 4 環境・生命工学系

## 学内近況報告

環境・生命工学系 系長 浴 俊彦

同窓生の皆様、益々お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。ご存知のように、本学は2016年10月で開学40周年を迎えました。バイリンガル講義・シェアハウス型学生宿舎の建設をはじめとする国際化への取り組みや、同窓生の皆様にもご協力いただきました開学40周年記念事業のひとつである図書館の部分改修が始まり、本学は新しい時代に向けて着実に歩みを進めております。近年、国際化や少子化など大学を取り巻く環境は大きく変化しておりますが、環境・生命工学系教職員一同、教育・研究・社会貢献をミッションとして日々励んでおります。

環境・生命工学系の近況についてご報告いたします。前号の同窓会報以降の教員の異動に関しては、2016年3月に水野彰先生と平田幸夫先生が定年退職されました。また、角田範義先生が和歌山高専校長として転出されました。水野先生は1981年に電気・電子工学系に着任され、技術開発センターを経て、1993年のエコロジー工学系の新設に携わられました。その後、エコロジー工学系で系長を務められるなど35年の長きにわたり、主に静電気応用工学の教育・研究にご尽力いただきました。角田先生は1987年に物質工学系に着任され、物質工学系、学内再編後の環境・生命工学系で29年間にわたり、無機化学や触媒化学の教育・研究にご貢献いただきました。2009年4月からの5年間は副学長として活躍されたほか、附属図書館長、未来ビークルリサーチセンター長を歴任され、最後の2年間は環境・生命工学系で系長を務められました。平田先生は1978年に物質工学系に着任され、物質工学系、学内再編後

の環境・生命工学系で38年間の長きにわたり分析化学の教育・研究にご尽力いただきました。一方、新任教員として2016年4月に伊藤博光先生が先端環境技術分野の助教として着任されました。松本明彦先生の研究室で教育・研究に活躍されています。また、2011年4月から2016年3月まで岐阜工業高等専門学校の校長を務められた北田敏廣先生が2016年4月より特命教授に就任されました。

また、今年度も本系の学生・教員の受賞等が数多くありました。特に2016年4月には、広瀬侑先生が平成28年度文部科学大臣表彰若手科学者賞を、兼務教員の大門裕之先生が平成28年度文部科学大臣表彰科学技術賞(科学技術振興部門)をそれぞれ受賞されました。最新の情報は大学ホームページまたは環境・生命工学系ホームページをご覧ください。

環境・生命工学系に所属する教員は、先端環境技術分野、生態工学分野、生命工学分野、分子機能化学分野の教育研究分野で引き続き活発な研究活動を行っております。研究室一覧については、別表に掲載させていただきますのでご参照ください。

以上、環境・生命工学系の近況をご紹介いたしました。開学40周年記念事業では同窓生の皆様には既にご協力いただいておりますが、事業は継続しておりますので、引き続き寄付金等のご協力をお願いできればと存じます。今後とも環境・生命工学系の教育・研究活動に一層のご高配・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

環境・生命工学系現員表(H28年4月現在)

		本務教員		兼務教員			
コース	分野	研究室名	教職員名	本務所属	研究室名	教職員名	
未来環境工学コース	先端環境技術	センシング応用研究室	田中 三郎 教授	研究基盤センター	無機材料研究室	中野 裕美 教授	
		機能性界面科学研究室	松本 明彦 教授 伊藤 博光 助教				
		光センシング応用研究室	有吉 誠一郎 准教授				
		反応エネルギー工学研究室	小口 達夫 准教授				
		高電圧・プラズマ応用研究室	高島 和則 准教授 栗田 弘史 助教 安田 八郎 助手				
		機能触媒システム工学研究室	水嶋 生智 准教授 佐藤 裕久 助教 大北 博宣 助手				
	生態工学	持続社会工学研究室	後藤 尚弘 准教授	国際交流センター	資源循環工学研究室	大門 裕之 教授	
		大気・熱環境システム研究室	東海林 孝幸 講師				
	生命物質工学コース	生命工学	分子遺伝学研究室	浴 俊彦 教授 広瀬 侑 助教	エレクトロニクス先端融合研究所	応用共生学研究室	中鉢 淳准教授
			生体機能工学研究室	平石 明 教授			
遺伝子工学研究室			田中 照通 准教授				
生体機能制御工学研究室			沼野 利佳 准教授				
生体分子工学研究室			吉田 絵里 准教授				
生命科学研究室			梅影 創 講師				
水圏環境生物工学研究室			山田 剛史 講師				
生命機能科学研究室			吉田 祥子 講師				
分子機能化学		高分子機能化学研究室	伊津野 真一 教授 藤澤 郁英 助手				
		有機合成化学研究室	岩佐 精二 教授				
		マイクロ分離科学研究室	齊戸 美弘 教授				
		高分子材料工学研究室	辻 秀人 教授 荒川 優樹 助教				
		有機反応化学研究室	柴富 一孝 准教授				
		界面物理化学研究室	手老 龍吾 准教授				
機能性高分子化学研究室	原口 直樹 准教授						

環境・生命工学系事務室	B棟事務室	河合 充代	技術専門職員	太田 初一
	G棟事務室	江口 美由樹		齊藤 年秀
				坂井 悦子

## 退職教員より

### 「学生の皆さんと共に歩んだ静電気応用研究」

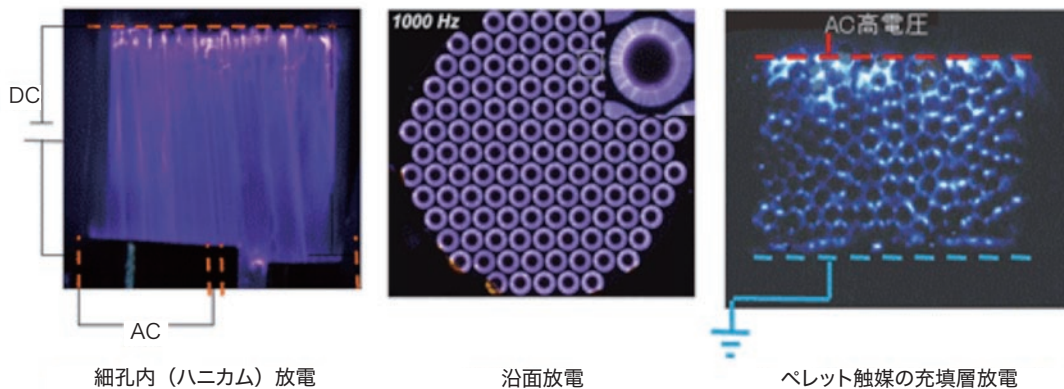
水野 彰



まずは着任以来自由な研究環境で過ごさせていただきましたことを深く感謝申し上げます。着任早々米国に長期出張させていただきご迷惑をおかけしましたが、貴重な体験ができます、とても有難く思っています。また工作上手な学生（田中三郎教授）がいましたので、資材の乏しい時期でも研究が進みました。今でも重要部分の手作りは大切だと思います。空气中を浮遊する微粒子の電気集塵技術はずっと興味を持っていますが、コロナ放電で菌やウイルスが破壊でき、また、においの除去ができることが判り、現在の空気清浄機の基礎になりました。低温プラズマ（写真）によるガス浄化の研究には多くの企業からご支援を賜りました。釜瀬幸広氏（IHI シバウラ）、清水一男氏（静岡大学准教授）、倉橋正人氏（三菱電機）、金賢夏氏（産総研）、奥本衛氏（ダイキン工業）、蘇振洲氏（デンソー）、成奉祚氏（LG 電子）、Tun Lwin 氏（ミャンマー政府職員）、松井良彦氏（デンソー）、木下洋平氏（トヨタ自動車）、佐藤聡氏（日野

自動車）、林秀明氏（逝去）をはじめとする卒業生、そして社会人学生、外国人研究者の貢献により、私たちの研究室がこの分野の中心の一つになったと思います。一方、初期のパソコンが出始めた頃に植物細胞の静電選別装置を川上友則氏（浜松ナノテクノロジー社長）が中心となって作りました。それから、レーザーと静電気力を用いる個々の細胞・DNA 分子の制御・計測へと研究を進めてきました。まだ途上ですが、西岡正輝氏、平野研氏、松浦俊一氏（3名とも産総研）、小松旬氏（ゲノムビジョン）、中野道彦氏（九州大学准教授）をはじめ、職員の桂進司先生（群馬大学教授）、栗田弘史氏を含めた皆様の貢献により1分子反応が追えるようになりつつあり、今後の展開が楽しみです。私自身どれほど照一隅ができたか分かりませんが、研究室を巣立った皆様の一層のご発展と社会貢献を心より願っています。

\*この原稿は大学広報誌「天伯」No. 141（オンライン第23号）に掲載されたものをご本人の了承を得て転載したものである。



低温放電プラズマの写真



「1980-2000年代は宝の宝庫です。思い出して下さい。」

和歌山工業高等専門学校 校長 角田 範義

私は、定年まではまだですが、2016年3月に豊橋技科大を退職し、4月から和歌山高専の校長として大学とは異なった生活を行っています。

1987年(昭和62年)に採用され、旧物質工学系に所属しましたので、約28年近く務めたこととなります。少し、振り返ってみたいと思います。当時の教授陣は、有機：伊藤健児、高山雄二、堤和男、伊藤浩一、分析：浅田栄一、神野清勝、無機：稲垣道夫、高石哲男、上野晃史のそうそうたる先生方がおられました。みかけより優しい先生方でした。その中で、皆さん、怒られながらもものびのびと研究、教育を行っていました。高専生は精神的にタフだなと感心したしだい。私が、赴任した時代にワープロでの卒論、修論が始まってきた気がします。当時は、PC-9801(NEC)が主流で、フロッピーをもって、多くないPCを共用していました。そのため、文はワープロですが、図は当然自筆で、実験装置もアナログが多く、作成に苦勞していました。修理も、自分で対応していました。それと比べ、現在は、アナログからデジタル化、インターネットの普及により、当時より確実に実験・研究環境が進歩しました。ですから、研究者の能力が変わらないのであれば、格段の進展があつてしかるべきと思いますが、なかなか、そこが実感として感じられません。逆に、

研究が狭い専門性のとらわれているという社会の批判が出てくる状況です。これは、測定技術に限られていた場合、その結果だけで議論できることは難しく、幅広い観点からの議論が必要となるため、周辺の知識を学んでおく必要が研究者の必須条件であったと思います。しかし、測定技術の進歩は、測定結果の精度の向上をもたらし、それだけで議論できる舞台が出来上がるという状況を作り出し、高い専門性を生み出すことになったと思います。皆さん、周辺知識を思い出して下さい。宝が埋まっています。

いろいろ書きましたが、最後にものをいうのは、人力です。自分の周りにどれだけの人がいる、さらに、どれだけ影響を受ける人がいたかです。私は、影響を受ける人たちとの出会いには恵まれましたが、自分が影響を与える人になっていたかどうかは自信がありません。豊橋技科大は、私にとって、勉強させてもらう場として良い先生方、学生に恵まれていたと思います。ありがとうございました。

最後に、旧物質工学系で作成した、高専生獲得のための資料「まねき猫」からの似顔絵を載せて、退職のお礼としたいと思います。



伊藤 浩一先生



神野 清勝先生



堤 和男先生



若かりし頃の角田

## 「光陰矢の如し」

平田 幸夫

本学が一期生を迎えた昭和53年4月に本学に赴任し、途中で1年余りの米国への留学期間がありました。38年にわたって本学に勤務してきました。振り返ってみると光陰矢の如しで、短かったように感じられる一方、また様々なことが思い出されてきます。

私の専門は、分析化学の分野で混合物を分離する方法であるクロマトグラフィーです。特に、如何にして分離の性能を向上させることができるかという点について興味をもち、研究を行ってきました。最初の数年は主に液体クロマトグラフィーに携わっていましたが、しばらくして興味は液体の代わりに超臨界流体を用いる方法にシフトしました。その原理はさらに遡ること約20年前に報告されましたが、様々な理由から一般には普及しませんでした。原理的には非常に優れた特性を持つこの方法が再注目されるようになりました。しかし、当時は実用的な装置が開発されておらず、既存の機器を利用しながら自分で装置を組み立て、その操作法も一から開発してきました。その

後、分析化学の分野にもIT化の波が押し寄せてきました。それに合わせて、装置の制御やデータ解析のためのソフトの開発を迫られました。この間、目覚しい成果とは言えませんが、それなりの目的を達成できたと思っています。しかし、依然としてまだ一般には普及しているとはいえません。ところが、最近、日米の大手分析機器メーカーが、相次いで装置を発売しました。今後、再復活があるか期待しているところです。

今考えて見ますと、上手くいった事や失敗した事がいろいろありましたが、学生と一緒に考えることが研究を進める上で大きな原動力となったと思います。また、多くの先生にご協力をいただきました。心からお礼を申し上げるとともに、皆様の今後のご活躍と本学のさらなる発展をお祈りします。

\* この原稿は大学広報誌「天伯」No. 141（オンライン第23号）に掲載されたものをご本人の了承を得て転載したものである。



田原市福江町の河津桜（2015年3月）

## 無機材料研究室の近況

博士前期課程2年 古谷 彰平

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

平成28年度の当研究室では、中野裕美教授の下、博士前期課程3名、学部生2名が在籍しており、日々研究活動に励んでいます。当研究室では、新たな無機材料の合成、評価・解析を研究テーマとしており、新規蛍光体材料の合成や、強磁場を活用したユニークな材料創成を行っています。

白色LEDが、1996年に発表されて以来、この20年間で著しい発展を遂げ、市場規模の拡大が続いています。市場の拡大が進む中で、蛍光体の用途も多様化しており、それに伴ってこれまでにない蛍光特性が求められています。これらを背景として、当研究室では、青、緑、黄、赤色に発光する蛍光体の研究を行っています。中でも赤色蛍光体は、高い発光強度を示し、実用化に向けて特許出願もしています。

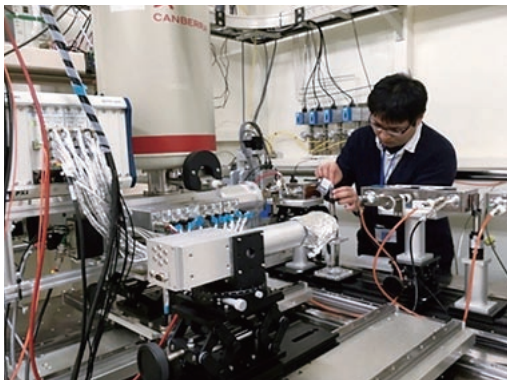
当研究室で研究しているTiをドーブしたLiNbO<sub>3</sub>固溶体は、特異な周期構造を発現します。このユニークな構造を活かし強磁場を用いた配向材料を研究しています。最近では、試料の作製手法が確立し、高配向セラミックスの合成に成功しています。この試料の電気特性を測

定したところ、電気特性の異方性が発現しました。また、当該分野の過去の知見だけでは説明できない物性を示しており、更なる詳細な解析を進めています。

試料の評価・解析には、X線回折や走査型電子顕微鏡、透過型電子顕微鏡などの学内装置に加え、あいちシンクロトロン光センターのXAFSによる解析なども行っており、新たな知見が得られています。研究成果は、論文や国内外の様々な学会にて報告しています。2015年には、PACRIM 11(韓国)、2016年には、IGNITE 2016(ペナン)にて研究発表をし、優秀ポスター賞を受賞しました。

研究室は、和気あいあいとした雰囲気の中で、日々研究に励んでいます。ゼミの際は、活発に意見を交換しあい自身の研究についてだけでなくお互いに助け合いながらより良い研究を模索しています。また、研究活動以外では、定期的に英語講座を行っており、各々のスキルアップにも励んでいます。講座の後には、研究室懇親会も開いており、メンバーの親睦を深めています。

卒業生、修了生の皆様におかれましては、ご多忙のことと存じますが、豊橋にお越しの際は、ぜひ研究室にお立ち寄りください。研究室一同お待ちしております。末筆ながら、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



# 5

## 建築・都市システム学系

### 学内近況報告

建築・都市システム学系 助教 松尾 幸二郎

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。2010年の学内再編で旧建設工学系(旧第6工学系)から建築・都市システム学系(第5工学系)に生まれ変わり早6年が経過しました。この6年というのはJABEE(日本技術者教育認定機構)認定プログラムの標準的な認定期間と同じで、今回は2010年の学内再編と同時にJABEE認定審査を経て認定されましたので、まさに今年度が次期JABEE認定継続のための受審時期となりました。系全体の取りまとめとして三浦均也教授、建築コースは浅野純一郎教授、社会基盤コースは加藤茂教授が中心となり、10月に受審を致しまして、無事継続認定される運びとなりました。これも同窓生の皆さまをはじめとして、本学・本系の教育研究活動に関わっていただいている方々の多大なるご支援の賜物だと考えております。特に、十数名の卒業生・修了生の方々には、受審にあたり審査団との面談などにご参加いただきました。この場をお借りしまして、あらためて御礼申し上げます。

本系の今年度の学生数は、2016年10月現在で、学部167名、大学院博士前期課程106名、博士後期課程13名となっております。一方、教職員としては、昨年度末に泉田英雄准教授がご退職され、本年度に新たに都築和代教授、勝野幸司准教授、杉木直准教授、劉一辰助教を迎えまして、現在は教授12名、准教授6名、助教8名、技術専門職員2名、事務職員4名という体制になっております。

近年においては、多発する様々な自然災害への対応、人口減少時代における都市のあり方の再検討、地球レベルのグローバルな環境問題への対応など、社会において建築・都市システム学が果たすべき役割がますます重要性を増してきていると感じています。今後も、「社会が求める技術者像」について同窓生の皆さまを含めた様々な方々よりご意見を頂きながら、その変化に対応した教育システムの改善を図って参る所存です。

末筆ながら、皆様におかれましては、それぞれのご職場・お立場において今後ともお元気で活躍されることをお祈り申し上げて、近況報告とさせていただきます。

#### 教職員一覧(平成28年10月現在)

##### 【建築・都市デザイン学分野】

教 授	斉藤 大樹, 中澤 祥二, 松本 博, 松島 史朗, 都築 和代(新任), 浅野 純一郎, 中森 康之(兼任)
准 教 授	松井 智哉, 松本 幸大, 勝野 幸司(新任)
助 教	林 和宏, 水谷 晃啓, 鍋島 佑基, 辛島 一樹, 劉 一辰(新任)

##### 【都市・地域マネジメント学分野】

教 授	宮田 譲(系長), 三浦 均也, 井上 隆信, 加藤 茂, 藤原 孝男(兼任)
准 教 授	横田 久里子, 渋澤 博幸, 杉木 直(新任)
講 師	松田 達也
助 教	岡辺 拓巳, 松尾 幸二郎

##### 【両分野】

技術専門職員	金田 隆文, 片岡 三枝子
--------	---------------



## 新任教員より



建築・都市システム学系 教授 都築 和代(つづき かずよ)

2016年4月に産業技術総合研究所から着任しました。専門分野は建築環境工学です。室内環境は季節の気候・気象の影響を建物の断熱・気密性能を介して受けますが、人は窓の開閉や空調機器を駆使し、衣服を調整することにより、快適に生活し、効率よく仕事を進めようとしています。温熱環境が人の体温調節や快適性、ならびに、睡眠など生活行動へ及ぼす影響やそれらの関係性を解明し、省エネルギーとの両立を目指す技術開発や健康影響の評価に取り組んでいます。



建築・都市システム学系 准教授 勝野 幸司(かつの こうじ)

2016年4月に、高専・技科大間人事交流で熊本高専八代キャンパスから参りました。専門は建築計画で、室内空間における災害時の避難行動予測など、安全かつ快適に過ごすことができる建築空間と人間との関係のあり方を、ソフト・ハードの両面から研究しています。着任早々に熊本地震があり、学内の多くの皆様からご心配頂きましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。1年の任期の残りも約半年となりましたが、研究や学生指導で多くの成果を残したいと思います。



建築・都市システム学系 准教授 杉木 直(すぎき なお)

2016年4月に建築・都市システム学系に着任しました。専門は土木計画学・交通工学で、主に都市の土地利用と交通の関係を表現した将来予測モデルに関する研究を行っています。今後人口や税収が減少してゆく中で、コンパクトで持続可能な都市をどのように構築してゆくか?という問題を対象にしています。今後は、特に避難行動や災害に強い都市構造など防災に関する研究にも取り組んでゆきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



建築・都市システム学系 助教 劉 一辰(りゅう いちえん)

2016年4月より本学に着任いたしました劉一辰と申します。現在は都市計画を専門とし、特にアジアの近代都市計画史に関する研究を行っています。アジアには長い歴史を持つ都市がたくさんあります。これらの都市が今後どこへ向かえばいいのか、その歴史のある美しい街並みをどう生かしたらいいのか、そんなことを考えながら、東奔西走しています。研究、教育に精一杯尽力して参りたいと思います。よろしくお願ひいたします。



## 海岸工学研究室の近況報告

建築・都市システム学系 助教 岡辺 拓巳

同窓生の皆様におかれましては、各方面にてご活躍のことと思います。

2016年11月現在、海岸工学研究室には博士後期課程1名、博士前期課程4名、学部7名の学生が配属されており、加藤茂教授とともに研究に励んでいます。

研究室では沿岸域の環境と防災を軸として、土砂や地形、高潮や津波に関連する研究テーマに取り組んでいます。土砂の研究では、超音波や画像解析技術のほか蛍光X線分析を取り入れ、海域での浮遊砂濃度や粒径分布、化学元素を計測して土砂動態を明らかにするための新たな手法を開発しています。津波に関する研究では、数値モデルの高精度化に加え、それを検証するための水理実験も積極的に実施しています。その他、遠州灘のシラス、三河湾のアサリ、インドネシアの養殖業といった漁業と関連する研究も進めており、幅広いテーマで活動しています。また、表浜での海岸測量は週1回のペースで継続しており、15年以上のモニタリングデータが蓄積され続けています。何代もの同窓生が継いできたこのデータは、世界的な雑誌であるNature Geoscienceにて2015年に掲載された論文「Coastal vulnerability across the Pacific dominated by El Niño/Southern Oscillation」

で使用されました。機会がありましたら、ぜひ一度ご覧ください。

研究以外の行事としては、大阪大学および名古屋大学の海岸工学研究室との3大学合同のゼミ合宿が毎夏開催されています。本年は名古屋大学が幹事となり、石川県千里浜などの能登の海岸を踏査しました。普段目にしていない遠州灘や三河湾の海岸とは違った景色を目にする良い機会となりました。また、他大学の学生と交流できたことで、学生たちにとっては良い繋がりが生まれたのではないかと思います。加えて、研究室の同窓会も毎年9月頃に開催しております。青木伸一先生(大阪大学教授)も出席されておりますので、同窓生の方におかれましては、ぜひご参加ください。開催案内などの情報は研究室同窓生のメーリングリストにてお知らせしています。情報が届かない方やメールアドレスを変更された方はご一報いただければと存じます。

同窓生の皆様におかれましては大変お忙しいこととは存じますが、豊橋方面へ来られることがありましたら、お気軽に研究室にお立ち寄り下さい。研究室一同、心よりお待ちしております。皆様が今後ますますご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。



## 海外同窓会 報告書

### 海外同窓会ミャンマー支部設立準備会議報告

同窓会顧問 高嶋 孝明 (本学国際協力センター)

2016年10月22日(土)にミャンマー・ヤンゴンにてTUT同窓会・海外支部設立準備会議を行いました。本学同窓会からは小職が出席した他、本学からは大貝理事・副学長、松田国際教育センター長(電気・電子情報工学系)、藤原教授(総合教育院)、柳田教授(機械工学系)、Lim准教授(国際教育センター)、松井准教授(建築・都市システム学系)が出席しました。ミャンマーからは、8名の本学同窓生が参加者しました。

まず、TUT同窓会として「TUT同窓会ミャンマー支部設立準備会議」を行いました。大学および同窓会組織の近況を説明した後、ミャンマー支部の支部長と副支部長を参加の8名で互選し、支部長にはKhin Hnin Thu Zarさん、副支部長にはThet Swe Tunさんを選出いたしました。

引き続き、豊橋技科大・長岡技科大・高専機構による「三機関合同海外同窓会」を行いました。上記の豊橋技科大関係の参加者に加えて、長岡技科大からは同窓生6名および教職員5名、高専機構からは同窓生4名および教員2名が参加し、各組織の近況報告を交えてピュッフェスタイルで飲食しながら歓談すると共に、今後の海外での同窓会組織の活動を活性化するための意見交換を実施しました。

今後の展望ですが、既に決定している同窓会海外支部各国の支部長・副支部長間の横の情報連携を進めると共に、これらのネットワークを活用した大学とのコミュニケーション強化、同窓会イベント等の今後の継続的实施を企画推進していきたいと考えています。



参加したTUTミャンマー元日本留学生8名  
右から4人目：ミャンマー支部長に選出されたKhin Hnin Thu Zarさん  
右端：ミャンマー副支部長に選出されたThet Swe Tunさん




TUT 同窓会ミャンマー支部設立準備会議参加者の集合写真



三機関合同海外同窓会参加者集合写真（上）と懇親会の様子（下）





## 同窓会事務局より

・・・・・・・・ 同窓会事業報告および予定（平成27年度～28年度） ・・・・・・・・

### 1. 会報の発行

同窓会報第33号を平成28年7月に発行しました。これまで同様、電子化してホームページ（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて公開しており、随時閲覧可能になっています。第34号は平成28年度中の発行に向けて現在編集作業を進めており、Web名簿システムを介した同窓生の皆様への会報発行のメール周知を予定しています。

### 2. 卒業記念パーティーの開催

平成28年3月23日にアイプラザ豊橋にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、大学学生食堂において学友会との共催で卒業記念パーティーを開催しました。平成28年度（平成29年3月23日）も例年通り行う予定です。

### 3. 学生活動への援助

本学学生課との共同で、学生活動援助を平成28年度は18団体に行いました。詳細は本文をご覧ください。

### 4. 懇親会、パーティー等交流活動開催の助成

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。平成28年度は平成28年11月現在で5団体に対して助成を行いました。詳細は本文をご覧ください。なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法はホームページ上（<http://www.alumni.tut.jp/>）に掲載されていますので、是非ご覧ください。

### 5. 定例役員会の開催

平成28年度は平成28年11月現在までに3回の定例役員会（メールでの役員会1回含む）を開催し、同窓会活動に関して話し合いました。第4回は2月に開催予定です。なお、役員会の議事録はホームページ上（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて閲覧できます。

### 6. 大西学長との懇談

平成28年6月23日に、華乃井テラスにて大西学長、大貝理事、鈴木理事の大学執行部役員と、本会の古野会長、高嶋顧問、山本副会長との懇談を行い、平成28年度の同窓会の活動内容や、大学40周年記念事業への同窓会からの協力内容等について意見交換を行いました。

### 7. 定例総会の開催

平成28年7月30日に、豊橋技科大駅前サテライトオフィスにて定例総会を開催し、Web名簿会員システム、開学40周年記念事業への協力、平成27年度の事業報告および収支決算報告、ならびに平成28年度の事業計画および収支予算案等について話し合いました。なお、総会の議事内容および議事録はホームページ上（<http://www.alumni.tut.jp/>）にて閲覧できます。



## 8. 技科大同窓生集いの部屋の開催

平成 28 年 8 月 20 日に開催された豊橋技科大オープンキャンパスにおいて、同窓生集いの部屋を設けました。

## 9. 海外同窓会活動

平成 27 年 2 月にインドネシア・バンドンにて本学同窓会海外支部設立準備会が開催され、同窓会からは高嶋顧問、山本副会長が出席しました。平成 28 年 10 月にはミャンマー・ヤンゴンにて海外支部設立準備会議を行い、高嶋顧問が出席しました。

## 10. 豊橋技術科学大学開学 40 周年記念事業への協力

平成 28 年 8 月 20 日に、開学 40 周年記念事業として、「Silicon Valley 型起業術とグローバルイノベーション」と題して、本学旧 情報工学系 OB の荒井真成氏（Kii 株式会社代表取締役兼 CEO）による記念講演会を開催しました。

また、同記念事業への寄付金として、本学同窓会予算より 400 万円の寄付を行いました。なお、同窓生の皆様からは平成 28 年 10 月 20 日現在で 7,027,000 円の寄付をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

## 11. 開学 40 周年記念同窓会事業の実施

同窓会としての開学 40 周年記念事業として、平成 28 年 10 月 8 日に新 2 系・新 3 系合同同窓会（第 2 回三志会）を開催しました。また、平成 28 年 12 月 3 日に新 1 系同窓会を開催しました。各同窓会の開催報告は本文にてご覧ください。

また、今年度より本学大学院に進学予定で学業及び研究活動等が優秀と認められた学部 4 年生 19 名（新 1 系：6 名、新 2 系：4 名、新 3 系：4 名、新 4 系：3 名、新 5 系：2 名、各系の人数配分は学生定員数を考慮して決定）に「同窓会会長賞」を授与する予定です。

# 平成27年度 同窓会収支報告・事業報告

## 平成27年度 技科大同窓会決算報告

### 予算

#### ■ 収入の部

入会金	2,200,000
会費	4,400,000
預金利息	10,000
会報広告費	80,000
旧系管理会費繰入金 旧1系	5,172,791
H27年度収入計	11,862,791
H26年度からの繰越金※	54,494,843
合 計	66,357,634

### 決算

#### ■ 収入の部

入会金(421名×5,000)	2,105,000	
会費(421名×10,000)	4,210,000	
預金利息	7,904	
郵便普通		153
銀行普通(三井住友)		6,780
銀行定期(三井住友)		971
会報広告費	0	
旧系管理会費繰入金 旧1系	5,174,074	5,174,074
H27年度収入計	11,496,978	
H26年度からの繰越金	54,494,843	
合 計	65,991,821	

予算

■ 支出の部

会報経費	600,000
総会案内状等印刷・連絡費 役員経費	1,219,538 100,000
庶務経費	100,000
海外同窓会出張費	500,000
卒業記念パーティ援助金 学生活動援助金	250,000 500,000
同窓生懇親会開催援助	800,000
技科大同窓生集いの部屋経費	50,000
各系および海外同窓会活動支援経費	1,000,000
同窓会管理システム経費 (管理費+a)	2,000,000
40周年記念事業活動経費	1,000,000
H27年度支出計	8,119,538
H28年度への繰越金	58,238,096
合計	66,357,634

決算

■ 支出の部

会報経費	0
会報No.32,33デジタルブック	1,219,538
総会案内状等印刷・連絡費 役員経費	75,000
2015/4/22役員会(古野会長2000円+役員1000円×19名)	21,000
2015/6/24役員会(古野会長2000円+役員1000円×13名)	15,000
2015/7/11総会(古野会長2000円+役員1000円×13名)	15,000
2015/10/27役員会(古野会長2000円+役員1000円×10名)	12,000
2016/2/20役員会(古野会長2000円+役員1000円×10名)	12,000
庶務経費	185,067
各種振込手数料	10,152
入会金・会費振込用紙印字サービス(郵便局)	2,102
入会案内書類一式印刷サービス(朝倉印刷)	13,500
会則英語翻訳作業(NAI)	66,886
学長懇談会経費(会場代+食事代)	48,400
総会お茶菓子代	1,527
会計監査作業謝金(赤井先生)	2,000
学生等アルバイト代(管理システム25500円+名簿データ整理15000円)	40,500
海外同窓会出張費	295,646
中国同窓会航空運賃(稲田)	114,530
中国同窓会宿泊費(稲田)	14,161
タイ・ラオス・ベトナム同窓会電車賃(新幹線16440円+京急820)	17,260
タイ・ラオス・ベトナム同窓会航空運賃(山本)	121,970
タイ・ラオス・ベトナム同窓会宿泊費(山本)	27,725
卒業記念パーティ援助金	250,000
学生活動援助金	500,000
課外活動援助	500,000
卒業生懇親会開催援助	542,000
高木宏幸先生 准教授就任 祝賀会(H27.4.4実施.11名参加)	22,000
材料機能制御研究室 足立望君ボスドゥ就任祝賀会(H27.4.11実施.11名参加)	22,000
(旧2系) 森研究室同窓会(H27.6.20実施.57名参加)	114,000
雲雀会トヨタ自動車勤務同窓会(H27.5.27実施.45名参加)	90,000
齊藤さん社行会(旧1系界面表面創製研究室)(H27.7.4実施.10名参加)	20,000
第11回システム制御研究室同窓会(H27.9.12実施.69名参加)	138,000
2015年豊橋技科大海岸工学研究室OB会(H27.10.3実施.19名参加)	38,000
自動車研究会日本学生7+コンピュータ大会参観10周年記念式典(H27.10.17実施.20名参加)	40,000
第2回大門研OB・OG会(H27.11.21実施.11名参加)	22,000
環境エネルギー変換工学研究室OB会(H28.3.11実施.18名参加)	36,000
技科大同窓生集いの部屋経費	69,699
西山先生講演謝金(30000円)+交通費(19140円)	49,140
集いの部屋お茶菓子代	5,559
集いの部屋学生アルバイト代	15,000
各系および海外同窓会活動支援経費	431,051
中国同窓会支援費	23,196
インドネシア同窓会支援費(関下先生立替分)	69,000
タイ同窓会支援費	23,198
ラオス同窓会支援費	96,296
ベトナム同窓会支援費	162,649
タイ・ラオス・ベトナム同窓会懇親会会費(山本先生個人負担分)	10,484
インドネシア同窓会支援費(山本先生個人負担分)	46,228
同窓会管理システム経費	522,288
会員管理システム事務局利用料(H27.4月)	28,080
会員管理システム事務局+会員利用料(44,928円/月.H27.5月~H28.3月)	494,208
40周年記念事業活動経費	0
H27年度支出計	4,090,289
H28年度への繰越金(A)	61,901,532
合計	65,991,821

平成28年度 技科大同窓会予算

■ 収入

項 目	金 額 (円)	
入会金(5,000円×388人)	¥1,940,000	
会費(10,000円×388人)	¥3,880,000	
預金利息	¥10,000	
会報広告費	¥80,000	
H28年度収入計	¥5,910,000	
H27年度からの繰越金	¥61,901,532	
合 計	¥67,811,532	

■ 支出

項 目	金 額 (円)	
会報経費(No.32~No.34)	¥700,000	
役員経費	¥100,000	
庶務経費	¥150,000	
海外同窓会出張費	¥500,000	
卒業記念パーティ援助金	¥250,000	
学生活動援助金	¥500,000	
同窓生懇親会開催援助	¥800,000	
技科大同窓生集いの部屋経費	¥50,000	
各系および海外同窓会活動支援経費	¥1,000,000	
各系活動支援経費		¥500,000
海外同窓会活動支援経費		¥500,000
同窓会管理システム経費(管理費+a)	¥650,000	
40周年記念寄付金	¥4,000,000	
40周年記念事業活動経費	¥4,500,000	
各系同窓会準備金		¥1,500,000
各系同窓会実施補助金		¥2,000,000
海外支部支部長招へい支援金		¥500,000
記念講演会(オープンキャンパス)実施費用		¥120,000
同窓会会長賞(20,000円×19人)		¥380,000
H28年度支出計	¥13,200,000	
H29年度への繰越金	¥54,611,532	
合 計	¥67,811,532	

## 第64回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

1 日 時 平成27年5月16日(土)・17日(日), 30日(土)・31日(日)  
 平成27年6月13日(土)・14日(日), 20日(土)・21日(日), 27日(土)・28日(日)  
 7月4日(土)・5日(日), 11日(土)・12日(日)

2 場 所 パロマ瑞穂スタジアム他19会場

3 幹事大学 名古屋工業大学

4 成 績

(男 子)

大学名 競技種目		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	6	3.0	8	1.0	4	5.0	7	2.0	1	10.0	2	8.0	3	6.0	5	4.0
2	水泳	6	3.0	8	1.0	4	5.0	7	2.0	5	4.0	3	6.0	1	10.0	2	8.0
3	硬式野球																
4	準硬式野球	5	2.5	3	5.5	5	2.5	2	8.0	1	10.0	3	5.5	5	2.5	5	2.5
5	硬式テニス	2	6.0	4	4.0	1	8.0	7	1.0	5	3.0	3	5.0			6	2.0
6	ソフトテニス	5	4.0	6	3.0	4	5.0	8	1.0	1	10.0	3	6.0	7	2.0	2	8.0
7	バスケットボール	1	8.0	4	4.0	6	2.0			5	3.0	3	5.0	-	0.0	2	6.0
8	バレーボール	6	2.0	7	1.0	3	5.0			1	8.0	5	3.0	4	4.0	2	6.0
9	卓球	6	2.0	-	0.0	5	3.0			4	4.0	1	8.0	3	5.0	2	6.0
10	バドミントン	6	3.0	4	5.0	1	10.0	8	1.0	2	8.0	5	4.0	7	2.0	3	6.0
11	サッカー	6	3.0	7	2.0	5	4.0	2	8.0	3	6.0	4	5.0	1	10.0	-	0.0
12	ハンドボール	4	3.0			5	2.0			2	5.0	6	1.0	3	4.0	1	6.0
13	柔道	-	0.0	5	3.0	3	5.0			4	4.0	-	0.0	2	6.0	1	8.0
14	剣道	6	3.0	8	1.0	4	5.0	5	4.0	2	8.0	7	2.0	3	6.0	1	10.0
15	空手道	-	0.0	-	0.0	2	8.0	6	3.0	3	6.0	4	5.0	1	10.0	5	4.0
16	弓道	5	3.0	7	1.0	2	6.0	3	5.0			6	2.0	1	8.0	4	4.0
17	体操	5	2.0			3	4.0			4	3.0	-	0.0	2	5.0	1	6.0
18	馬術	3	4.0			4	2.0			2	5.0	1	6.0	4	2.0	4	2.0
19	アーチェリー					4	2.0			2	4.0	3	3.0	1	5.0	5	1.0
20	少林寺拳法					1	4.0			4	1.0	2	3.0			3	2.0
合計得点			51.5		31.5		87.5		35.0		102.0		77.5		87.5		91.5
男子順位			6		8		3		7		1		5		3		2

(女 子)

大学名 競技種目		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	-	0.0			2	6.0	6	2.0	1	8.0	4	4.0	3	5.0	5	3.0
2	水泳	7	1.0			4	4.0	5	3.0	1	8.0	6	2.0	3	5.0	2	6.0
5	硬式テニス					1	5.0	3	3.0	2	4.0	4	2.0			5	1.0
6	ソフトテニス	4	4.0			2	6.0	7	1.0	6	2.0	3	5.0	1	8.0	5	3.0
7	バスケットボール					1	5.0			2	4.0	4	2.0	-	0.0	3	3.0
8	バレーボール	5	1.0							1	5.0	3	3.0	4	2.0	2	4.0
9	卓球	6	1.0			3	4.0			4	3.0	5	2.0	2	5.0	1	6.0
10	バドミントン	5	3.0			4	4.0	7	1.0	3	5.0	1	8.0	6	2.0	2	6.0
12	ハンドボール																
13	柔道			-	0.0	2	4.0			-	0.0			1	5.0	3	3.0
14	剣道	-	0.0			4	4.0	5	3.0	6	2.0	2	6.0	3	5.0	1	8.0
15	空手道					4	3.0	1	6.0	6	1.0	2	5.0	5	2.0	3	4.0
16	弓道	5	3.0	7	1.0	6	2.0	2	6.0			3	5.0	4	4.0	1	8.0
17	体操					3	2.0			2	3.0			-	0.0	1	4.0
19	アーチェリー					3	2.0			1	4.0			4	1.0	2	3.0
20	少林寺拳法																
合計得点			13.0		1.0		51.0		25.0		49.0		44.0		44.0		62.0
女子順位			7		8		2		6		3		4		4		1

## 【学生活動への援助報告】

### ラグビー部

建築・都市システム学課程 3年 西田 未有

顧問教員：総合教育院 教授／学長補佐 池松 峰男

部員数：学部 15名、大学院 12名

この度は課外活動活性化経費にて、私達ラグビー部を支援して頂き誠にありがとうございました。部員一同、心よりお礼を申し上げます。援助金は、コンタクトバッグ、テーピングテープ、コールドスプレーの購入に使用させていただきました。タックルバッグは練習時に、テーピングテープは試合時の選手の怪我防止や滑り止めに、コールドスプレーは怪我の応急処置に使わせていただいております。

現在、ラグビー部は大学院生 12 名、学部生 15 名の計 27 名で活動を行っています。毎週火、木曜日の放課後、そして土曜の午前中に本学グラウンドにて練習をしています。そして時には他大学や高校、社会人チームと練習試合や合同練習を行っています。私達ラグビー部は東海学生連盟に所属しており、現在秋季に行われる東海学生ラグビーリーグの真ただ中です。Bリーグで優勝し、Aリーグに昇格することを目標にチーム一丸となって練習に励んでおります。ですが今年度は初心者が多く、厳しい状況下にいるというのが現実です。そのため例年よりも多く話し合いを重ね、練習メニューを工夫することで初心者の育成、上級者のレベルアップを目指しています。このように頑張っているのも先輩方のご支援があるからです。心より感謝いたします。

これからも先輩方への感謝の気持ちを忘れず、目標に向かってチーム一丸となって精進してまいりますので、ご支援とご声援のほどよろしく願いいたします。



### 硬式野球部

機械工学課程 2年 松下 浩基

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明

特定准教授 土谷 徹

部員数：学部 16名

昨年に引き続き硬式野球部の活動をご支援いただきまして有難うございます。現在は4年生1人、3年生9人、2年生4人、1年生2人の計16人で活動しています。顧問として電気電子情報工学系教授の澤田和明部長と特定准教授の土谷徹監督にご支援・ご指導いただいております。練習は主に火曜・木曜の放課後と土曜の午後に行っています。

私たち硬式野球部は愛知大学野球連盟に加盟しており、春季と秋季の年2回のリーグ戦があり、現在は3部リーグに所属しています。今年度の成績は、春季は3部Aリーグ4位、秋季は3部Bリーグ4位と、3年次からの新入部員が多く昨年のチームからいっそうと力をつけてきました。

授業等の関係で平日の練習は全員揃うことが難しく、主に個人練習や基礎的な練習を行い、土曜日に全体練習や実戦的な練習を行っています。冬場のオフシーズンは筋トレや走り込みなど、体作りを目的とした練習を行っています。リーグ戦前にはオープン戦を積極的に組んで、リーグ戦に備えています。

今回の援助金は練習球 10 ダースに使わせていただきました。来年度は、冬場にしっかりトレーニングを積み、新入生とも力を合わせ、1勝でも多く勝利を積み重ね、充実したリーグ戦にしたいと思っています。今後ともご支援の方よろしくお願い致します。



## バドミントン部

電気・電子情報工学課程 4年 大浦 健太郎  
顧問教員: 情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之  
部員数: 学部 33名, 大学院 7名

このたびは課外活動活性化経費としまして、バドミントン部をご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同、心より感謝申し上げます。私たちバドミントン部は、部員数 40 名で、バドミントンというスポーツを通じて分野を超えた学生間の親睦を深めるとともに、各大会において優秀な成績を修めることを目的として、毎週月・金曜日の 19 時～ 22 時に大学の体育館にて練習を行っています。

未経験者の数が総部員の半分以上ですが、経験者が初心者に教えながらみんなで楽しくバドミントンを行っています。練習内容としてはランニング、基礎打ち、ノック、試合練習です。練習内容はすべて自分たちで考え真面目に練習に取り組んでいます。

今回いただいた課外活動活性化経費は、シャトルなどの消耗品の購入に使用させていただきたいと考えております。これからも楽しさと厳しさを両立しながらバドミントン部を発展させていきたいと考えておりますので、今後ともご支援、ご協力よろしく願いいたします。

各大会の成績は以下の通りです。

- ・東国体: 4 位 (団体)
- ・秋季豊橋リーグ 2 部: 2 位 (団体)
- ・春季新人バドミントン大会: 優勝 (個人)
- ・春季豊橋リーグ 2 部: 優勝 (団体)



## 弓道部

機械工学課程 4年 水野 樹央  
顧問教員: 電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明  
部員数: 学部 23名, 大学院 12名

この度は、私たち弓道部に課外活動活性化経費の援助をしていただき誠にありがとうございます。経費は弓二張と今年度分の道場使用料として使わせていただきました。おかげ様で弓の不足の解消、使用料が浮いた分を弓具の整備品等にまわすことで毎回の練習がより質のいいものとなっております。部員を代表してお礼申し上げます。

今年の新入部員は昨年よりも少なく練習の活気が失われることを懸念したのですが、練習や合宿などのイベントにも参加してくれ、日々充実した練習をおこなっております。また、上級生の人数が多いため初心者を集中して指導することができ、我々に引けを取らない射に仕上げることができました。最近ではドイツの留学生 2 名が正式に入部したいとのことで新たに部員が増え、より活気づいております。

日々の充実した練習の成果か、市民大会では優勝や準優勝、個人では参段を含む 3 名が昇段審査に合格しました。また、アメリカからの留学生がサークル 1 日体験に参加していただきました。文化が違う人に弓道を教えることで、部員の意識向上にもつながりました。

現在の弓道部は澤田和明先生に顧問をしていただいております。また練習は大学周辺の野依八幡社の弓道場を借りて練習しております。

しかし、学内に弓道場がないため十分な練習環境とは言えません。学内に弓道場を建設していただければさらなる成果が残せると考えております。



練習風景(上) 部内で競技をおこないました(下)



## 波のり部

機械工学課程 4年 瀬戸口 京平

顧問教員：国際交流センター 准教授 ライアン・ユージン

部員数：学部 26名, 大学院 8名

この度は、私たち波のり部に課外活動活性化経費よりご支援していただき、誠にありがとうございます。波のり部一同、心よりお礼申し上げます。

活性化経費によりサーフボード1枚、ウェットスーツ2着、サーフボードキャリア1個購入させていただきました。波のある日は、毎朝早起きして学校に行く前に活動を行っており、道具の無い新入生も一緒に活動ができ、とても感謝しています。「楽しく」が主だった部員も日々練習を重ねるにつれ、「技術向上」を目的としてサーフィン検定の級を取得するなど個々で目標をもって活動しています。

また、豊橋技術科学大学の名前を背負って学生連盟の大会に出場したり、市が主催するサーフィン教室のボランティアスタッフとして参加するなど、年々その活動は幅広くなっています。少しずつではありますが、学内だけでなく豊橋市内外の方々にも認知してもらえるようになりました。

今後もビーチクリーンやその他ボランティアにも積極的に参加し、自然環境の保護や社会貢献への意識を養いサーフィンの理解と普及に努めていきたいです。



## 吹奏楽団

電気・電子情報工学課程 3年 伊藤 嘉崇

顧問教員：エレクトロニクス先端融合研究所／

電気・電子情報工学系 准教授 岡田 浩

部員数：学部 33名, 大学院 13名

いつも吹奏楽団の活動にご支援を賜り、誠にありがとうございます。団員一同、心よりお礼申し上げます。

今年度、私どもは課外活動活性化経費にて頂いた援助金でグロッケンを購入させていただきました。大学創立から40周年を迎え、最近では私どもが使う楽器の中には更新が必要なものも出てきております。高価な楽器の更新・購入を進める上で課外活動活性化経費は大変に有難い制度であり、団員一同、感謝しております。

今年度、吹奏楽団には10人の新入生を迎え、総勢46名で活動しています。

今年は「和」を団目標として、オープンキャンパスでの演奏や小学校でのクリスマスコンサートなどを行い、地域の方々に音楽を楽しんで頂けるように日々練習に励んでおります。また、演奏中に動きをつける、立奏を行うなどの新たな挑戦も多数行ってきました。

ご支援頂いたグロッケンは、今年の10月行いました第32回定期演奏会で使用させていただき、非常に活躍をしました。今後も毎年演奏させていただいている卒業式、入学式での式典演奏など多数の演奏機会が御座いますので、大切に使用させていただきます。

こういった活動をさせて頂けるのも、学校関係者様含め、多くの方々に支えられているからということをお忘れず、少しでも大学や地域の方々に貢献出来るように団員一同精一杯活動をしてまいります。

今後共ご支援よろしくお願い致します。



## アカペラサークル J.U.S.T

電気・電子情報工学課程 3年 雌熊 宏隆  
顧問教員:国際交流センター 准教授 吉村 弓子  
部員数:学部 67名, 大学院 23名

この度は、私たちアカペラサークル J.U.S.T.をご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同を代表して心からお礼申し上げます。

アカペラサークル J.U.S.T.は、本学の技科大祭や本サークル主催のアカペラライブ、他大学のアカペラライブなどでアカペラライブパフォーマンスを行っております。アカペラライブでより良いパフォーマンスができるよう、それぞれのバンドごとに日々練習を重ねております。他大学のサークルに比べ、学部生から大学院生までたくさんの部員が所属しているため、上下関係の繋がりが強く、練習の際はアドバイ스가飛び交うとても活発なサークルです。今年度は30人を超える部員が入部し、より一層活動が活発となっております。今年度は豊橋駅でのライブ、静岡大学、愛知教育大学、本校での三大学共催ライブ、技科大祭ライブの3回のJ.U.S.T.主催ライブを開催し、中でも技科大祭でのライブではたくさんのお客様にお楽しみいただきました。

今回ご支援いただいた課外活動活性化経費は、ライブに必要なアンプや、グラフィックイコライザー、マルチケーブルの購入に充てさせていただきました。

多くの方々のご支援によって、活動できていることを忘れず、皆様のご期待に添うべくこれからも精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



## ロボコン同好会

機械工学課程 壽 直樹  
顧問教員:総合教育院/機械工学課程 教授 鈴木 新一  
部員数:学部 30名, 大学院 20名

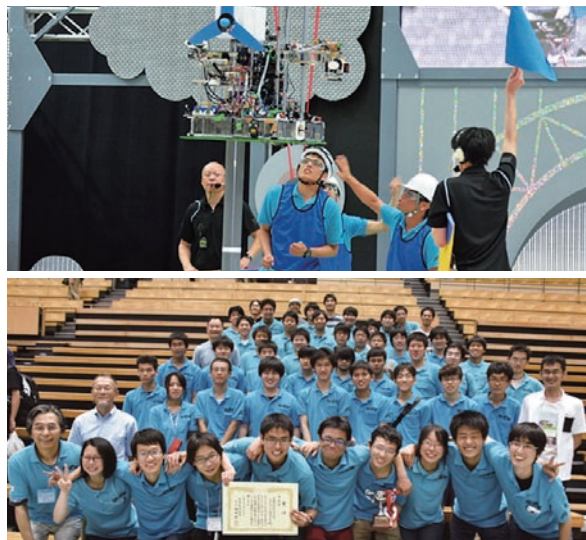
この度は我々ロボコン同好会に、課外活動活性化経費よりご支援いただき誠にありがとうございました。部員一同心よりお礼申し上げます。

ロボコン同好会は「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」の優勝を目指して機械工学課程鈴木新一教授のご指導のもと活動しています。今年度は国内大会「NHK 学生ロボコン 2016」で惜しくも優勝は逃しましたが、準優勝という成績を残しました。決勝戦では僅差で東京大学に敗れましたが、爪痕を残すことができました。来年度はABUでの優勝を目指します。

現在、来年度の出場資格を獲得するため、準備を進めています。来年度の競技では、柔らかく、飛び方が不安定なフライングディスクを正確に飛ばすアイデアが試合のカギを握りそうです。学部生30名、大学院生20名でアイデアを練っていく計画です。

活動はこれに限らず大学間の技術交流等にも力を注いでおり、9月10日には「東海地区交流ロボコン」にも参加しました。また、地域交流の一環として、子供たちがロボットを身近に体験することを目的として地域のイベントにも積極的に参加しています。

今年度は頂いた経費を、故障していた3Dプリンタとエアコンプレッサ、回路制作の効率化を図るためのヒートガン購入に当てさせていただきました。ご支援を糧に、部員一同精一杯尽力して参ります。今後のロボコン同好会の活躍にご期待ください。



準優勝の記念撮影

## コンピュータクラブ

情報・知能工学課程 4年 川上 賢十  
顧問教員: 情報・知能工学系 教授 梅村 恭司  
部員数: 学部 40名, 大学院 20名

このたびは、コンピュータクラブに課外活動活性化経費を給付して頂きありがとうございます。ご支援頂いたデスクトップ PC は C++ 班、C# 班にて開発、展示に仕様させて頂いております。

C++ 班、C# 班は今年度の文化祭での展示ゲームの数はここ数年で最多となります。ますます活気付いております。

近年のコンピュータクラブの活動としては、今迄通りに技科大祭に向けたゲーム、電子回路等の開発に加えて、コミックマーケットと言われる同人物即売会に参加を行っております。コミックマーケットでは部員が趣味で行なっているコンピュータに関わる活動などの紹介やプログラミング言語や関連概念の解説などを記した部誌や、技科大祭に向かない長時間行なうゲームの CDなどを頒布しています。

現在、部員数は 60 名を超え、ますます、活動の幅を広げております。それも一重にご支援による物と考えております。今後ともより高度でより楽しい活動を目指し励んでまいります。

末筆ながら皆様の御健康を心よりお祈り申し上げます。



## 自動車研究部

電気・電子情報工学専攻 修士 1年 田中 健太  
顧問教員: 機械工学系 教授 柳田 秀記  
部員数: 学部 26名, 大学院 19名

この度は私たち自動車研究部へご支援いただき、誠にありがとうございます。自動車研究部部員一同、心より御礼申し上げます。

自動車研究部は、毎年9月初旬に開催される全日本学生フォーミュラ大会に出場することを目標として活動しております。この大会に向け、車輛の設計・製造・テストや販売戦略の検討、原価計算など車輛製造の一連の流れを実際に体験し学んでおります。

今回ご支援いただいたのは、ドライバー用グローブ・シューズ、集塵機、タイヤ温度計、ウェアラブルカメラです。製作したフォーミュラ車輛に乗る際は、安全のため、耐火装備を着用する必要があります。弊部で今まで使用していたグローブやシューズは、長年使用してきたこともあり使用期限が近づいておりました。今回新しいシューズ・グローブをご支援いただき、ドライバーの安全を確保することができました。また、集塵機については、車輛製作時に発生する切子や削りくずの掃除に、タイヤ温度計、ウェアラブルカメラにつきましては、車輛性能確認とセッティングに、それぞれ活用させていただいております。

2016年度大会では、最終種目途中で車輛トラブルが発生してしまいリタイヤ、31位という結果となりました。今回ご支援いただいた品を活用してテスト走行を繰り返すことで、より速い車輛を作り上げたいと考えております。そして、2017年度大会では上位の成績を残せるよう部員一同努力してまいります。



## おちゃのかい

情報・知能工学課程 3年 高筒 飛輝  
顧問教員：環境・生命工学系 教授 平石 明  
部員数：学部 17名, 大学院 8名

この度は私たちおちゃのかいにご支援いただき、誠にありがとうございます。現在おちゃのかいは、毎週火曜日と金曜日に裏千家茶道の先生2人に講師としてお越しいただいて稽古を行っています。今回の援助金は先生方への謝礼金に充てさせていただきました。新入生はもちろん、上級生も先生方のご指導やアドバイスを受けて楽しんで茶道を学んでいます。

おちゃのかいでは毎年技科大祭にて「技科大庵」と称して一般の方に和菓子と抹茶をお出ししています。また、新入生がお点前を初披露する場でもあるため、今年も新入生たちが緊張しながらも堂々としたお点前を披露しました。

毎年9月には豊橋公園三の丸会館において「ふつうの茶会」というお茶会を開催しており、一般の方や先生、先輩方、他大学の方など多くの人々にお越しいただいております。このお茶会はおちゃのかいの中で最も大きな行事であり、全員が稽古で学んだことを生かし、真剣に取り組んでいます。これらの行事を通じてより多くの方に茶道を知っていただきたいと思っております。

最後になりますが、今後たくさんの方々にお茶会を楽しんでいただけるように、より一層稽古に励んでいきたいと考えております。今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。



## 豊橋日曜学校

機械工学専攻 修士1年 齊藤 哲郎  
顧問教員：建築・都市システム学系 准教授 渋澤 博幸  
部員数：学部 12名, 大学院 10名

この度は、私たち豊橋日曜学校にご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

私たち豊橋日曜学校は月に一度、日曜日に豊橋市内に在住している知的障害を持つ子どもたちとふれあうことを目的としたボランティアサークルです。子どもたちに普段の生活ではできない体験をしてもらえるよう、各月ごとにテーマを決め、様々なレクリエーションや工作、キャンプや運動会などを企画しています。活動日は月に1日ですが、安全面などを配慮し、また、子どもたちに楽しんでもらえるように長い時間をかけて準備をします。当日の内容の企画・準備等は時間がかかる作業ではありますが、当日中に子どもたちの元気な笑顔が見られるようにと思ひ、活動しています。

今年は新たに4人の学生が参加してくれ、すでに新入学生の企画したレクリエーションも行っています。9月には宇宙をテーマにし、ロケットのおもちゃを工作したり、宇宙に関するクイズを行ったりしました。10月には忍者をテーマにした運動会を行いました。今回ご支援いただいた課外活動活性化経費は、このような毎月の活動当日やその準備で使用する資料・物品作成用のプリンタのインク、その他備品・消耗品の費用に充てさせていただきました。

今回のご支援、そして多くの方々の支えを忘れず、皆様のご期待に添うべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



## 国際交流クラブ

情報・知能工学課程学部 3年 浅川 玲音  
顧問教員：国際交流センター センター長・教授 大門 裕之  
部員数：学部 42名, 大学院 13名

この度は、国際交流クラブ（CALL）にご支援を頂き誠にありがとうございます。サークル部員一同、心より御礼を申し上げます。

私たちのクラブでは、留学生と共に四季折々のパーティーを中心に、浜松祭りに出掛けて日本伝統の凧を楽しみ、初夏には竹を採って流し素麺をするなど、本年度も多彩な活動を行っております。またこうした行事を通して仲良くなった留学生達と食卓を囲むなどして同じ時間を過ごしなが、少しずつ互いの文化への理解を深め刺激を与えあい、日々世界の広さを体感しています。

ご支援を頂いた課外活動活性化経費は、豊橋市立細谷小学校における国際交流の会にてバスのチャーター代として使用させて頂きました。この会では留学生（5名）の母国文化紹介プレゼンや小学生の日本文化発表の通訳をする活動（日本人学生8名）を行いました。留学生の皆さんは雑巾掛けを体験し、始業の号令の音量に圧倒され、元気一杯の小学生達と一緒に楽しく遊んでいました。日本人学生もまた文化の違いを肌で感じる良い機会を得ることができました。

大学外での国際交流活動は互いの国について理解を深める大変良い機会ですが、移動一つにも大きなコストがかかります。同窓会の皆様のご支援ご協力により、今年も細谷小学校に訪問することができたこと、重ねて御礼申し上げます。



## ボランティア部

研究科 機械工学専攻 修士 1年 間根山 大  
顧問教員：総合教育院 教授 加藤 三保子  
部員数：学部 46名, 大学院 14名

静岡県の浜名湖今切口から愛知県の伊良湖岬に跨る海岸は通称「表浜海岸」と呼ばれています。この表浜は自然豊かな砂浜が約55km 続く全国的に見ても貴重な海岸であり、絶滅危惧種のアカウミガメが産卵に訪れることで知られています。しかし、近年、漂着ゴミやレジャーゴミ、不法投棄などにより海岸の自然環境が悪化していることが深刻な問題となっています。この問題を解決することを目指して、2007年夏より表浜海岸（愛知県域）約50kmを10日間かけて海岸を清掃する「表浜BLUE WALK」という活動を始めました。10回目を迎えた今年は、8月11日（木）～8月20日（土）の10日間でゴミ袋708袋分（2,328kg）のゴミを拾うことができました。

この活動は単なるゴミ拾いではなく、参加者と多くの市民が一緒になって、この地域固有の自然環境や文化について学ぶ場でもあります。この活動を通して、地域固有の魅力が伝わり、その価値が理解され、保全につながっていくことを期待しています。

今年度の表浜BLUE WALK 2016の開催にご協力いただいた全ての皆さまに心から御礼申し上げます。



海岸清掃の様子

## 模型部

情報・知能工学課程 4年 大原 正和

顧問教員：情報知能工学科 准教授 菅谷 保之

部員数：学部 17名, 大学院 3名

この度は模型部にご支援をして頂き、誠にありがとうございます。昨年以上の支援をしていただきましたことを部員一同、心より感謝申し上げます。2010年の発足からおかげさまで7年目を迎えることができました。今年度は多くの新入部員に恵まれ、現在は20名で活動しております。毎週2回の活動に加え、テーマを決めて作品を作る部内コンペや有志によって開かれる展示会などのイベントへの参加、ブログでの情報発信や交流なども行っております。今年度の新入部員は作る模型のジャンルが各々異なっており、今後の作品展示などが多岐にわたるジャンルで展開されることが予想されます。

今回のご支援により購入させて頂いたプラモデルは、全て技科大祭で開催した子ども向けの模型製作体験教室にて使用させて頂きました。去年以上の支援をしていただいたにも関わらず、今年も用意したプラモデルは全て子ども達に作ってもらい、大変ご好評を頂きました。また、プラモデルを作ってもらっただけで終わらせるのではなく、作ったプラモデルと一緒に記念写真を撮り、その写真をプレゼントすることで、自分で体験した「モノづくりの楽しさ」を形あるものとして残してあげられたと思います。これからも体験教室を通して、子ども達に「モノづくりの楽しさ」を伝えていければ思っております。

今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



## ダンスサークル

機械工学課程 4年 猪狩 溪太

顧問教員：国際交流センター 准教授 ライアン・ユージン

部員数：学部 15名, 大学院 14名

この度は私たちダンスサークル gilleworkers への課外活動活性化経費でのご支援誠にありがとうございます。部員一同心より御礼申し上げます。課外活動経費によって購入させていただきましたリノリウムシートによって、部員が床のコンディションを気にすることなく、目一杯ダンスをすることができるようになり、日々の練習が生かされる発表ができるようになりました。

今年度は学部 15名、大学院 14名の計 29名で活動しており、昨年度より人数も増えたことにより、活発なサークルとなりました。顧問のライアン・ユージン先生（国際交流センター 准教授）の協力もあり、日々練習に励んでいます。今年度は昨年度同様全国大会の予選を兼ねた大きな大会や、個人イベントに多く参加するのは勿論のこと、学内でのイベント参加により一層力をいれています。特に大学内の売店で開催される季節毎のイベントで毎回ダンスパフォーマンスをさせていただいたり、大学が実施している交流協定校との国際交流プログラムに参加させていただき、留学生とダンス交流するなど新たな取り組みにも挑戦しております。

リノリウムシートを使用した発表が増えたことにより部員の日々の練習への意欲が増し、更に活動的なサークルになりつつあります。今後も大学や地域を盛り上げるために活動してまいります。このたびのご支援誠にありがとうございます。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



## ジャグリングサークル

情報・知能工学課程 4年 金丸 裕亮

顧問教員:国際交流センター 准教授 村松 由起子

部員数:学部 20名, 大学院 7名

この度は、我々ジャグリングサークル「じゃぐだらりん」(以下:じゃぐだらりん)に活性化経費のご支援をいただき誠にありがとうございます。

前年から更に学内、豊橋市内外の方々に認知していただけになり、公共の場でのイベントや、他のパフォーマーさんとの共演等、活躍の機会も広がってまいりました。その結果、普段の練習にお子さんを連れて遊びに来てくださる方がいっしょったり、他校との合同練習を開催できたりと活動の幅も広がっております。また、今年度は大会に出場し、大学院生の部員が個人で2位を獲得する、というような実績を得ることも出来ています。

これらの活動成果の背景には、体験会での経験やパフォーマンス用具の充実があります。活性化経費によって購入した道具を用いることで、より多くの方にジャグリングの楽しさを知っていただけていると思います。また、昨年度はビデオカメラを購入し、活動風景の撮影を行っています。自分たちのパフォーマンスを客観的に見ることで、より美しいパフォーマンスを見せることができるようになったと考えています。

今後も体験会、ステージパフォーマンスを実施してジャグリングの楽しさをより多くの人に知っていただくと共に、大会などにも出場し、実績をつけていきたいと考えています。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



## 技科大祭実行委員会

電気・電子情報工学系 3年 白島 大樹

顧問教員:機械工学系 学生生活委員長 内山 直樹

部員数:学部 28名

この度は、私たち技科大祭実行委員会に課外活動活性化経費のご支援をいただき、誠にありがとうございました。本年度も同窓会の皆様にご支援いただいた資金は、例年同様、技科大祭で使用されるバックパネルの製作材料の購入資金として活用させていただきました。このバックパネルは、写真のように開催中のステージに飾られるもので、毎年、全学生に対しデザイン募集を行い、選ばれたデザインをもとに実行委員会のメンバーが製作します。バックパネルは、その年の技科大祭の方向性を表し、「顔」となる重要なものです。

今年で39回目となる技科大祭ですが、本年度はこれまでの経験を活かしつつ、次の40周年を目指すという意味を含みテーマを「NEXT」に決定しました。また、企画やステージでのパフォーマンスを見直し、よりお客様に楽しんでいただけるよう努力しました。おかげさまで、今年度の技科大祭では二日間合わせて2000人以上のお客様にご来場いただきました。

同窓会の皆様のご支援、ご協力により、今年も無事に技科大祭を執り行えましたこと、ご報告方々お礼申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。



## 【同窓生への支援事業報告】

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

### || 環境エネルギー変換工学研究室OB会 ||

機械工学系 助教 松岡 常吉

#### 開催概要

実施日 | 平成28年3月11日

開催場所 | ホテル・アークリッシュ豊橋

出席者数 | 35名(内本学卒業・修了生18名)

平成28年3月31日をもって野田進教授が本学をご退職されることになりました。野田先生のご退職を祝して、環境エネルギー変換工学研究室のOB会を3月11日に豊橋駅前のホテル・アークリッシュ豊橋5階ザ・グレイスに



で開催致しました。OB会には野田先生をはじめ、本研究室OBが19名(元教員を含む)、現研究室所属メンバー16名が参加し、これまでの研究室の思い出話に花を咲かせました。

次回OB会の開催は未定ですが、今後も定期的を開催したいと考えていますので、またご参加いただければ幸いです。ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



### || 材料機能制御研究室 同窓会 ||

平成13年度 修了 戸高 義一

#### 開催概要

実施日 | 平成28年4月9日

開催場所 | 豊橋技術科学大学 サカキパーク

出席者数 | 36名(内本学卒業・修了生18名)

機械工学系 材料機能制御研究室では、毎年春に同窓会を開催しております。毎年15名ほどの卒業生・修了生に参加して頂き、交流活動が続いております。今年度は4月9日(土)



に本学 サカキパークにて開催し、研究室の思い出話に花を咲かせました。研究室に新しく配属となった学部4年生を始め、在校生にとって、先輩と交流を深める良い機会となっております。ご参加頂きました皆様に感謝申し上げます。また、次回は平成29年春に開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。





## || 森研究室同窓会 ||

平成 16年度 修了 安部 洋平

### 開催概要

実施日 | 平成28年7月9日

開催場所 | Aloha Table Hawaiian Diner

出席者数 | 48名(内本学卒業・修了生30名)

平成 28 年 7 月 9 日に極限成形システム研究室（旧塑性加工研究室）同窓会を行いました。教授の森謙一郎教授のもと卒業生 30 名、在學生 12 名が集まりました。森先生より研究室の近況報告がありました。卒業生同士や在學生との間で近況や就職に関連する話題などで盛り上がりました。次回開催の際には参加をよろしくお願いします。



## || 平成28年度同窓会定例総会出席者懇親会 ||

平成 13年度 修了 稲田 亮史

### 開催概要

実施日 | 平成28年7月31日

開催場所 | ダイニング 寧々家 豊橋駅前店

出席者数 | 12名(内本学卒業・修了生12名)

平成 28 年 7 月 31 日（日）に開催した同窓会定例総会に出席された同窓生有志により、総会開催後に会場を移動して懇談会を開催いたしました。参加人数は 12 人で

したが、在学当時の思い出話や豊橋技科大の現在と未来に対する熱い思いを出身学科や年代を超えて語り合うことができ、非常に盛り上がった会となりました。この懇談会は、毎年開催される定例総会後の恒例行事で、次年度もこの時期に豊橋にて開催する予定です。ご都合のつく同窓生の皆様は、気軽にご参加いただくと幸いです。



## || 第7回 雲雀会 ||

平成 25年度 修了 佐藤 亮介

### 開催概要

実施日 | 平成28年4月21日

開催場所 | ホテルトヨタキャッスル

出席者数 | 54名(内本学卒業・修了生54名)

トヨタ自動車株式会社に勤務する卒業生の年1回の会合。2010年より開催しており、今回は第7回目の開催。本

年度は、過去最高の54名が参加しており、1982年修了の大先輩から今年の新入社員（まだ2ヶ月）まで幅広い年次のメンバーに参加いただき、大盛況で幕を閉じました。

来年度も開催する予定で、より多くの方に参加いただけることを期待しております。



## || 豊橋日曜学校 43周年記念会 ||

平成 23年度 修了 松尾 幸二郎

### 開催概要

実施日 | 平成28年9月18日

開催場所 | 愛知大学豊橋キャンパス食堂

出席者数 | 130名(内本学卒業・修了生18名)

本学のサークルの1つである豊橋日曜学校は、今年度で43周年を迎えました。45周年記念に向けたプレイベントとして、今年度の9月18日（日）に愛知大学豊橋キャンパスにて43周年記念大懇親会を開催しました。

参加者は、豊橋技科大卒業生の18名に加え、サークルの現役技科大生、共同で活動している愛知大学などの他大学や他学校の現役学生や卒業生、障害を持ったなかまやそのご家族を合わせて、総勢130名となりました。お子さんを連れて来られた卒業生などもおり、久しぶりの再会を大いに楽しんでいました。

次回は45周年記念行事の開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。



技術科学大学開学40周年記念祝賀会

